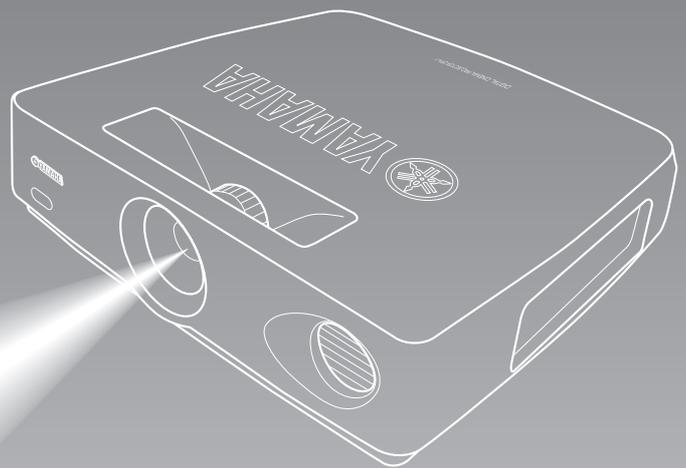


DPX-1

デジタル シネマ プロジェクター



このたびは、ヤマハデジタルシネマプロジェクターDPX-1をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

DPX-1の優れた性能を十分に発揮させるとともに、未永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用前に必ずお読みくださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



気をつけなければならない内容を表示しています。
たとえば△は「感電注意」を示しています。



してはいけない行為を表示しています。
たとえば⊘は「分解禁止」を示しています。



必ずしなければならない行為を表示しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を致す可能性が想定される内容を示しています。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

異常なおいや音が出る。 煙が出る。

内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない。

重いものを上に載せない。 ステープルで止めない。

熱器具には近づけない。 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

浴室・台所 加湿器を過度にきかせた部屋

雨や水がかかるところ

水滴の混入により火災や感電の原因となります。



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。



禁止

放熱スペース確保のため、排気口及び吸入口のそばにはものを置かない。

布やテーブルクロスをかけない。 じゅうたん・カーペットの上には設置しない。

通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。



禁止

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を追う可能性が想定される内容を示しています。



禁止

AC 100 ~ 120V/220 ~ 240V 50/60Hz以外の電源電圧では使用しない。
火災や感電の原因となります。



必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。



禁止

ランプの点灯中は、決して光源レンズをのぞかない。
強い光によって視力障害などを引き起こす原因となります。



注意

本機に使われているランプは取扱いを間違えると破裂する恐れがあります。
必ず取扱説明書に従って取り扱ってください。



禁止

本機を立てた状態で置いたり、不安定なところには置かない。
本機の転倒や落下によりランプが破裂して、けがをする原因となります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ろうそくなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。



禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。



プラグを抜く

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因となることがあります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



接触禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。
接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。



必ず行う

電池は極性表示(プラス \oplus とマイナス \ominus)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混せて使用しない。
破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバックなどに入れて携帯しない。
端子間でショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

ほこりや湿気の多いところへ設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。
感電の原因となることがあります。



注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。
それらの製品とはできるだけ離して設置してください。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



必ず行う

必ず付属の専用電源コードを使用する。
専用コード以外の使用は、火災や感電の原因となることがあります。



必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。
差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱・火災の原因となることがあります。



注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。



禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



禁止

動作中や停止直後のランプには手を触れない。
高熱により火傷をする原因となることがあります。
(ランプ交換は、ランプが充分冷えた状態で行ってください。)



禁止

お客さまによる天吊りなどの工事は一切行わないでください。
(工事は技術と経験が必要です。お買上げ店または専門の工事業者にご依頼ください。)
不十分な取付けは、本機が落下して、けがをする原因となることがあります。



注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災の原因となることがあります。



禁止

ランプを点灯した状態でレンズキャップをつけたまま放置しない。
レンズ部に熱がこもり故障の原因となることがあります。



必ず行う

ランプ交換時は必ず専用の交換用ランプカートリッジ(PJL-112)を使用する。
それ以外のランプカートリッジは本機には使用できません。

設置時のご注意

設置する環境・場所・仕方などによっては、本機の故障・破損・火災の原因となる場合があります。設置にあたっては次の事項に充分留意頂くようお願いいたします。

適切でない設置場所

1. 温度・湿度の高い場所

- 温度や湿度が非常に高い場所や、著しく温度の低い場所での使用は避けてください。
- 本機の使用温度範囲は5°～35°です。

2. 風通しが悪い場所

- 本機を設置する場所は、周囲から10cm以上の間隔をあけてください。
- 本機の吸気口、排気口をふさがないでください。温度上昇の原因となります。
- 柔らかいジュータンや布団の上には置かないでください。
- テーブルクロスなどを掛けないでください。
- 本機の下に小さな紙などを置くと、吸気口に吸付いて温度上昇の原因となります。

3. 埃の多い場所

- エアフィルターが詰まりやすくなり、温度上昇の原因となります。

4. 振動や衝撃が加わる場所

- 振動の伝わる場所や自動車などに設置すると、振動や衝撃により部品が損傷し故障の原因となります。

5. 水気のある場所

- 水気のある場所での使用は、感電、火災の原因となります。

6. 不安定な場所

- ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、けがや故障の原因となります。

ご注意

- スクリーンには、照明など本機以外からの光が直接入らないようにしてください。外光が入らないほど、コントラストのある美しい映像が見られます。

本機の特長

- DLP™(デジタルライトプロセッシング)方式を採用した高輝度・高コントラスト映像
- 余裕ある高画質投影のための大型0.9インチDMD™素子
- トライセグメントカラーホイールによる豊かな階調表現
- ヤマハの音響技術を駆使した運転音 30dB の静音設計
- 最新映像フォーマットに幅広く対応する多彩な入力モード
- 高性能 3-2 プルダウン検出による映画の高画質投影
- 6 個のメモリー機能搭載

(DLP™ および DMD™ は米国 TI 社の登録商標です。)

はじめに

設置

接続

基本操作

メニュー

参考

目次

はじめに

本機の特長	1
各部の名称と機能	
前面と接続部	2
コントロール部	3
リモートコントロール	4
リモコンの電池の入れ方	4

設置

設置するには	
スクリーンと投射距離について	5
スクリーンの設置位置について	6
スクリーンアスペクトの設定	6
デジタルレンズシフトによる調整	6
各種の設置方法	7

接続

接続するには	
AV 機器との接続	8
コンピューター機器との接続	9

基本操作

基本操作について	
電源を入れる	10
ピントを合わせる	10
入力を選ぶ	11
スティル——静止画	11
ハイド——映像消去	11
表示アスペクトを選ぶ	12
電源を切る	14
インディケータについて	14

メニュー

メニューの構成	
画質 の設定	15
信号 の設定	16
初期 の設定	17
設置 の設定	17
メニューの操作方法	
メニュー画面と操作ボタン	18
メニューの基本操作	19
サブメニューについて	20
サブメニューの基本操作	21
ワンタッチ画質メニュー	24
メニュー画面の移動	24
メモリー機能について	
メモリー番号を選ぶ	25
初期設定に戻す	26

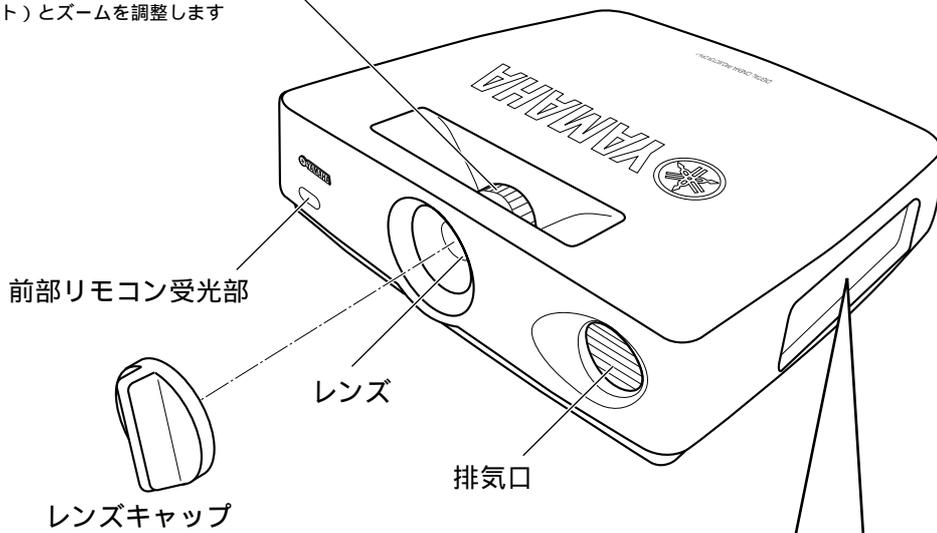
参考

参考	
用語解説	27
投影できる信号について	28
メニュー項目と入力信号との対応	29
メッセージの表示	30
メンテナンスについて	
日常のお手入れ	31
フィルターの清掃	31
ランプの交換	32
故障かなと思ったら	33
仕様	
仕様	34
付属品	34
寸法図	35
ヤマハホットラインサービスネットワーク	

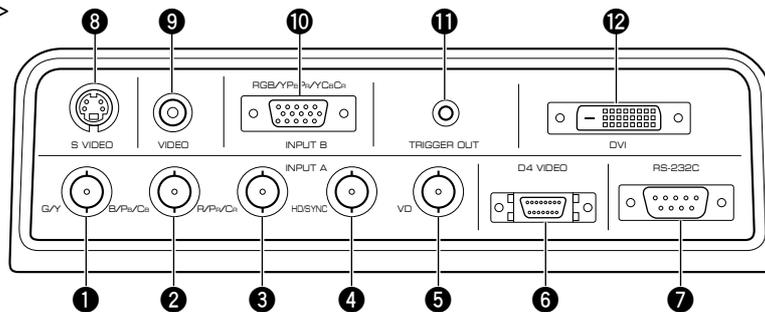
各部の名称と機能

前面と接続部

フォーカスリング、ズームリング
焦点（ピント）とズームを調整します



接続部 <側面>



① ~ ⑤ INPUT A (BNC 端子)

コンポーネントビデオ信号及びRGB信号の入力端子です。AV 機器からのコンポーネント信号は① ~ ③へ、コンピュータ機器からのRGB信号は④ ~ ⑤へ入力します。接続にはBNCケーブルを使用してください。

- ① G/Y (G, 輝度信号)
- ② B/Pb/Cb (B, 色差信号)
- ③ R/Pr/Cr (R, 色差信号)
- ④ HD/SYNC (水平同期信号、コンポジット同期信号)
- ⑤ VD (垂直同期信号)

⑥ D4 VIDEO (D 端子)

AV 機器の D 端子からのビデオ信号の入力端子です。D1 ~ D4 に対応しています。

⑦ RS-232C (D-sub 9 ピン)

サービス用の端子です。

⑧ S VIDEO (ミニ DIN 端子)

AV 機器の S ビデオ端子からのビデオ信号の入力端子です。S ビデオケーブルを使用してください。

⑨ VIDEO (ピンジャック)

AV機器のビデオ端子からのコンポジットビデオ信号の入力端子です。ビデオ用のピンケーブルを使用してください。

⑩ INPUT B (D-sub 15 ピン)

コンポーネントビデオ信号及びRGB信号 (RGB/Y PbPr/YCbCr) の入力端子です。D-sub モニターケーブルを使用してください。

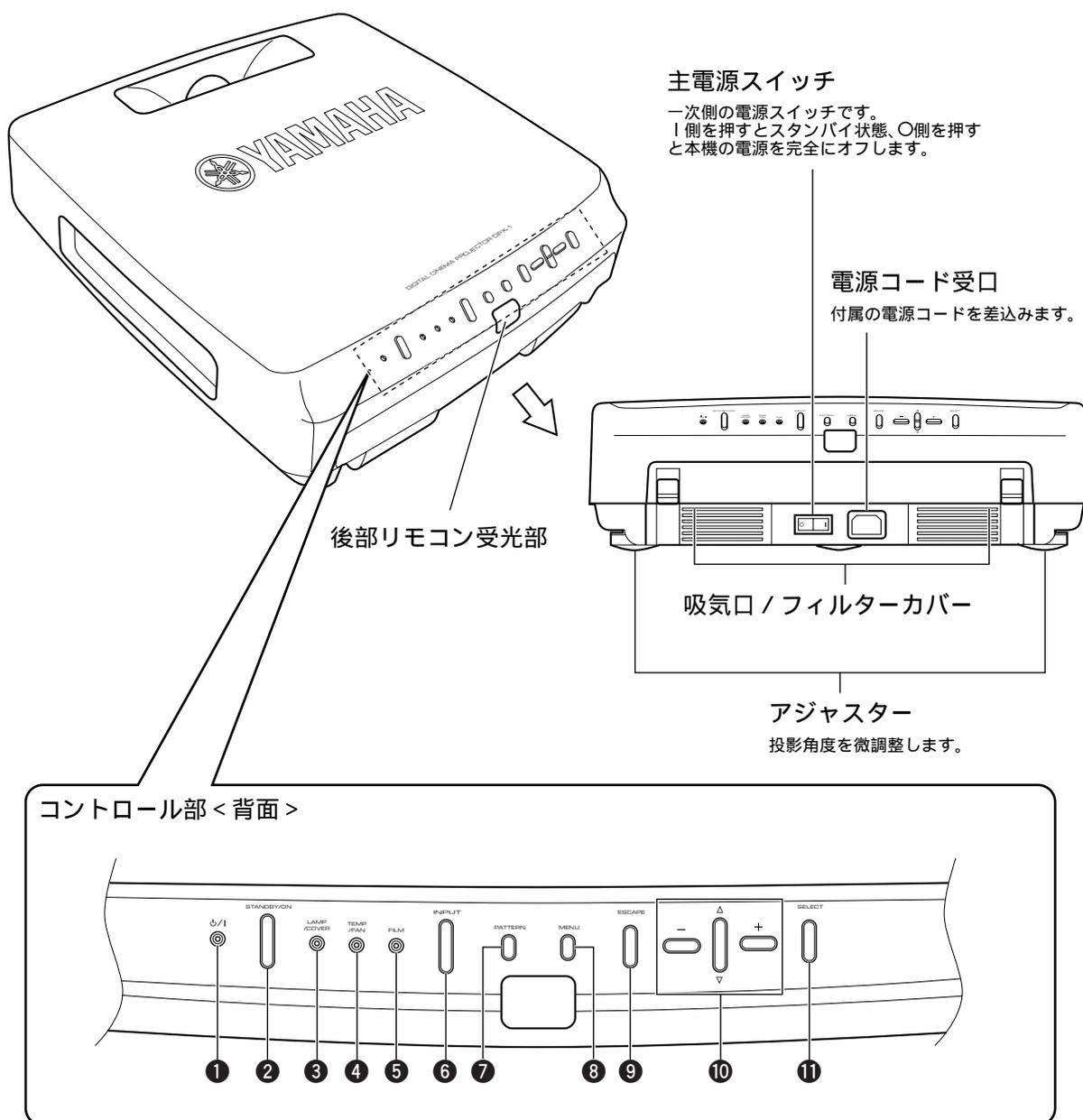
⑪ TRIGGER OUT (ミニジャック)

外部機器制御用の信号出力です。投影時に +12V の電圧が出力されます。

⑫ DVI (DVI 専用端子)

コンピュータ機器からの DVI 信号 (デジタル RGB) の入力端子です。

コントロール部

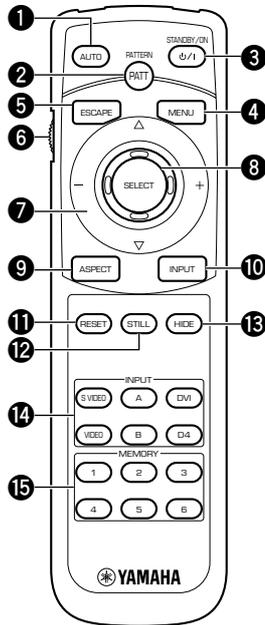


- ① ① I/O インディケータ (P.14)
- ② ② STANDBY/ON ボタン (P.10)
二次側で電源をコントロールするボタンで、スタンバイとオンを切替えます。主電源スイッチが入っていないと動作しません。
- ③ ③ LAMP/COVER インディケータ (P.14)
- ④ ④ TEMP/FAN インディケータ (P.14)
- ⑤ ⑤ FILM インディケータ (P.14)
- ⑥ ⑥ INPUT ボタン (P.11)
入力端子と入力信号を選択するメニュー表示をオン・オフします。
- ⑦ ⑦ PATTERN ボタン (P.10)
内蔵のテストパターンの投影をオン・オフします。
- ⑧ ⑧ MENU ボタン (P.18)
各種設定や調整を行なうメニュー表示をオン・オフします。
- ⑨ ⑨ ESCAPE ボタン (P.18)
サブメニューモードから抜けるときに使います。
- ⑩ ⑩ カーソルボタン (P.18)
△, ▽, -, + の操作をします。
- ⑪ ⑪ SELECT ボタン (P.18)
数値を確定したり、サブメニューに入るときに使います。

各部の名称と機能

リモートコントロール

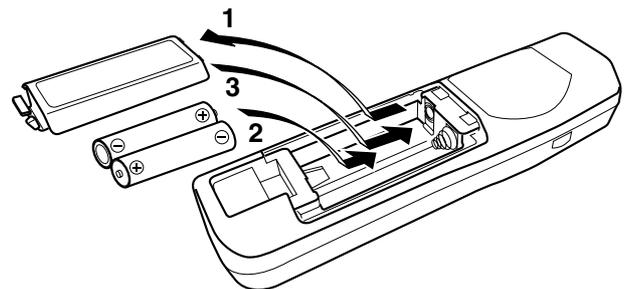
本体と同じ名前のボタンは、同じ働きをします。リモコンは、本体の前面あるいは後部の受光部に向けて、7m以内で操作してください。受光部正面に対するリモコンの角度が外れていると操作できないことがあります。



- ① **AUTO ボタン**
信号の種類に応じた最適な設定を自動的に再調整します。
- ② **PATTERN ボタン (P.10)**
内蔵のテストパターンの投影をオン・オフします。
- ③ **STANDBY/ON ボタン (P.10)**
スタンバイとオンを切換えます。主電源スイッチが入っていないと動作しません。
- ④ **MENU ボタン (P.18)**
各種設定や調整を行なうメニュー表示をオン・オフします。
- ⑤ **ESCAPE ボタン (P.18)**
サブメニューから戻るときに使います。
- ⑥ **照光スイッチ**
上又は下の方向に動かすと、約10秒間操作ボタンが光ります。
- ⑦ **カーソルボタン (P.18)**
△、▽、-、+の操作をします。
- ⑧ **SELECT ボタン (P.18)**
数値を確定したり、サブメニューに入るときに使います。ボタンの中央部を押してください。
- ⑨ **ASPECT ボタン (P.12)**
投影する映像の表示アスペクトを選びます。ボタンを押すと最初に現在選ばれているアスペクトを表示し、2秒以内にもう一度押すと次に移行します。

- ⑩ **INPUT ボタン (P.11)**
入力端子と入力信号を選択するメニュー表示をオン・オフします。
- ⑪ **RESET ボタン (P.18)**
メニューの各種パラメーター調整時に押すと初期値にリセットされます。
- ⑫ **STILL ボタン (P.11)**
投影している映像を止めて静止画にします。解除するには、もう一度押します。
- ⑬ **HIDE ボタン (P.11)**
投影している映像を一時的に消します。解除するには、もう一度押します。
- ⑭ **INPUT エリア**
入力端子をダイレクトに選ぶことができます。
- ⑮ **MEMORY エリア (P.25)**
記憶しているビデオメモリーを直接呼出します。

リモコンの電池の入れ方



1. リモコンの裏のふたをはずします。
2. 単3乾電池を2個、プラスとマイナスの向きを確認して、表示どおりに正しく入れてください。
3. 電池をセットしたら、カチッと音がするまでふたを閉めます。

ご注意

- 操作距離が短くなったり、操作が不確実になってきたら、電池を新しいものと交換してください。
- 新旧または異種の電池を混ぜて使用しないでください。
- 長期間使わないときは、電池は取出しておいてください。
- 万一液漏れが起きたときは、電池入れについた液をよく拭取ってから、新しい電池を入れてください。

設置するには

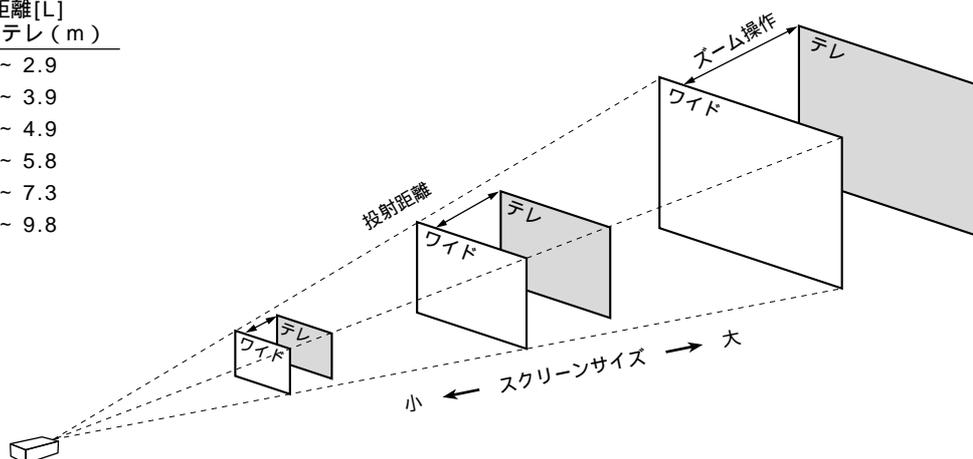
設置方法としては、スクリーンの正面の卓上置き、天井吊りの場合、半透過性スクリーンに裏側から投射する時の卓上置き、天井吊りの場合があります。後述の「メニュー」の④ 設置 の設置状態の項目で、この設置方法を設定する必要があります。(P.17 参照)

スクリーンと投射距離について

本機の最適設置位置(投射距離[L])は、使用するスクリーンの種類(4:3か16:9)とサイズ(対角線長)により決ります。また、ズーム機能を利用することによりワイド側からテレ側までの所定範囲での投射距離の調整が可能です。次の図の範囲を参考に設置してください。

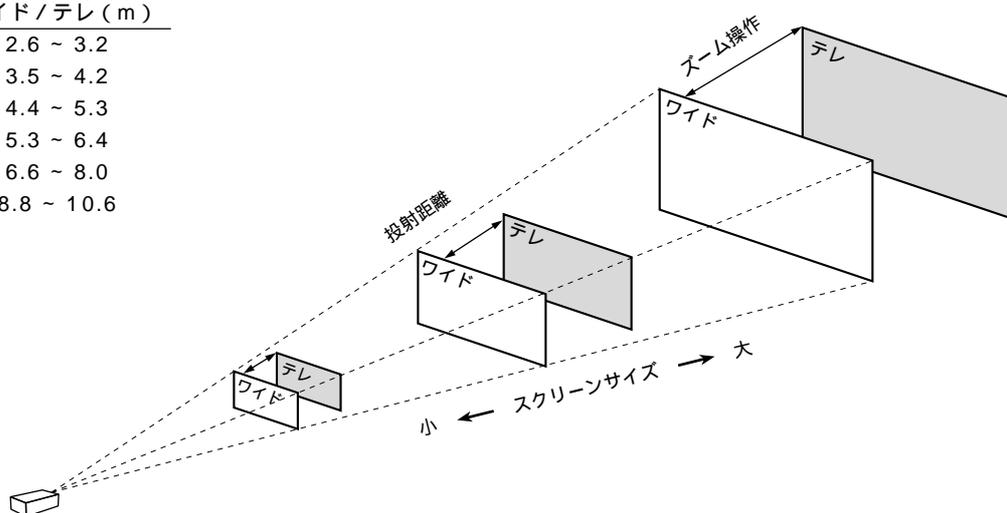
4:3 スクリーンの場合

スクリーンサイズ (inch)	投射距離[L] ワイド/テレ(m)
60	2.4 ~ 2.9
80	3.2 ~ 3.9
100	4.0 ~ 4.9
120	4.8 ~ 5.8
150	6.1 ~ 7.3
200	8.1 ~ 9.8



16:9 スクリーンの場合

スクリーンサイズ (inch)	投射距離[L] ワイド/テレ(m)
60	2.6 ~ 3.2
80	3.5 ~ 4.2
100	4.4 ~ 5.3
120	5.3 ~ 6.4
150	6.6 ~ 8.0
200	8.8 ~ 10.6



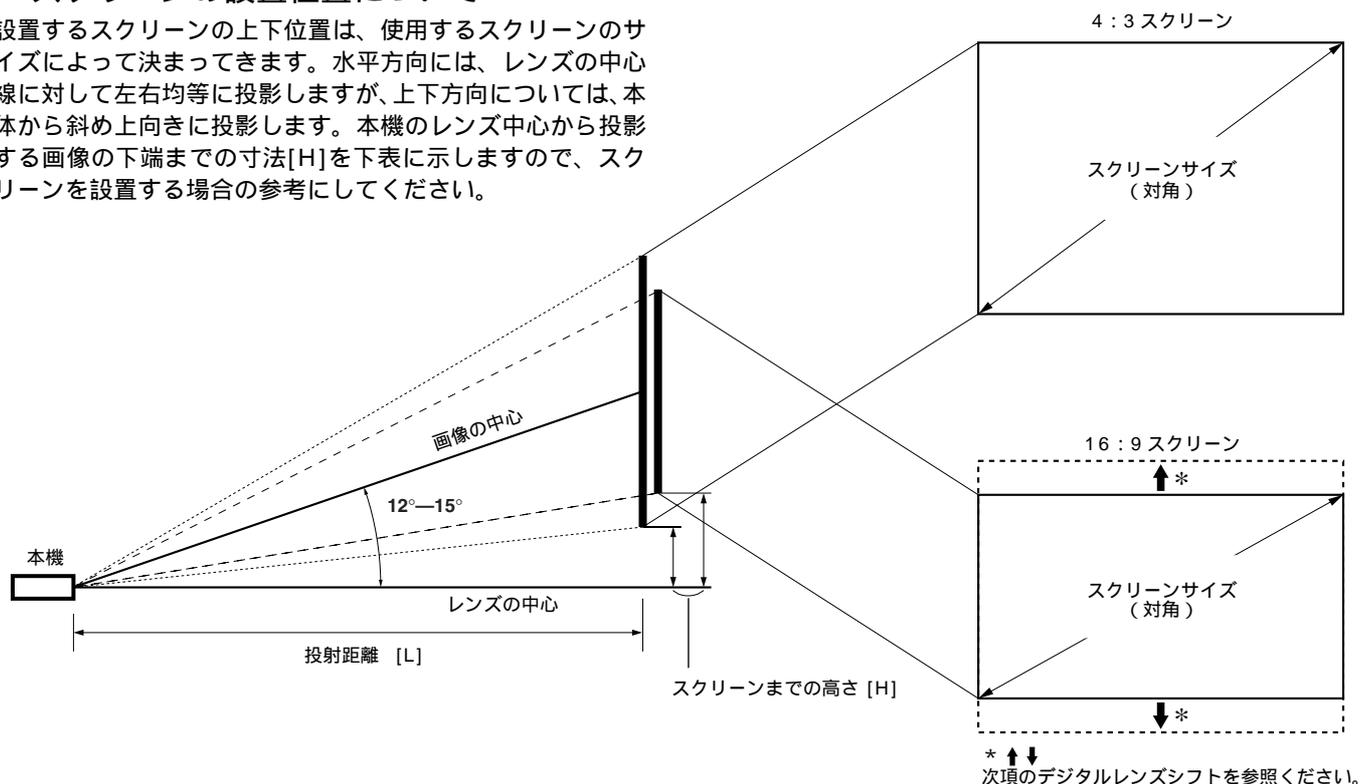
ご注意

- 投射距離はプロジェクターレンズ表面からスクリーン表面までの水平距離です。本機の場合、外装から約4cm奥に入っています。

設置するには

スクリーンの設置位置について

設置するスクリーンの上下位置は、使用するスクリーンのサイズによって決まってきます。水平方向には、レンズの中心線に対して左右均等に投影しますが、上下方向については、本体から斜め上向きに投影します。本機のレンズ中心から投影する画像の下端までの寸法[H]を下表に示しますので、スクリーンを設置する場合の参考にしてください。



4 : 3 スクリーンの場合

スクリーンサイズ (inch)	スクリーンまでの高さ[H] (cm)
60	18
80	24
100	30
120	36
150	45
200	59

16 : 9 スクリーンの場合

(デジタルレンズシフトが 0 の場合)

スクリーンサイズ (inch)	スクリーンまでの高さ[H] (cm)
60	32
80	42
100	53
120	64
150	80
200	106

スクリーンアスペクトの設定

本機では、使用するスクリーンの縦横比 (4 : 3 または 16 : 9) に応じて、スクリーンアスペクトを設定する必要があります。16 : 9 スクリーンを使用してスクリーンアスペクトを 16 : 9 に設定した場合、4 : 3 の入力映像信号をスクリーンからはみ出すことなく投影したり、次項のデジタルレンズシフトにより上下に調整することができます。設定については、後述の「メニュー」の④ 設置 のスクリーンアスペクトの項目 (P.17) を参照ください。

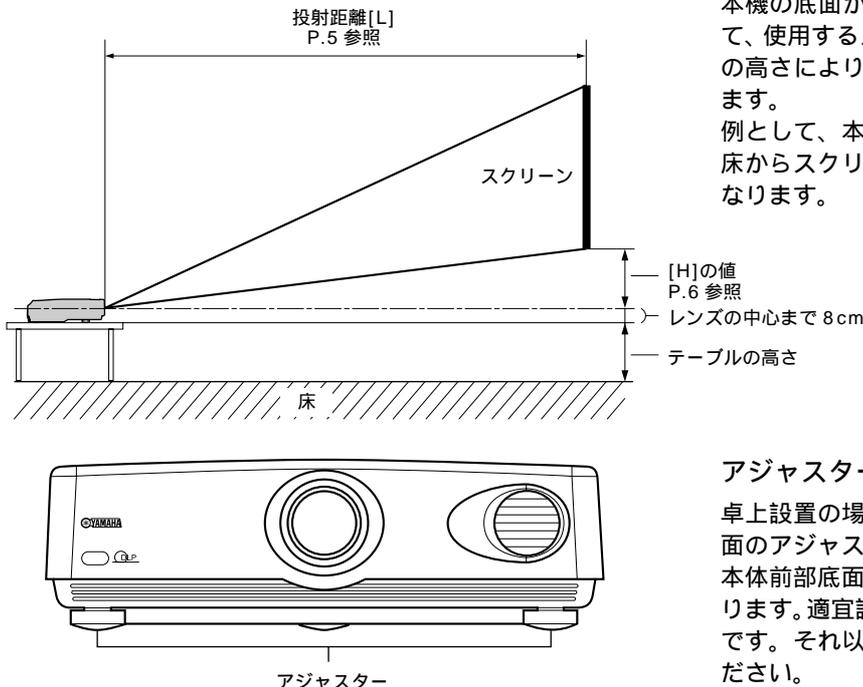
デジタルレンズシフトによる調整

「メニュー」の④ 設置 のスクリーンアスペクトの項目で 16 : 9 の設定をしている場合は、「メニュー」の④ 設置 の項目のデジタルレンズシフトにより、投影されている映像の、レンズ中心からスクリーンまでの高さ[H]を、デジタル処理により右記の範囲で上下に調整することができます。(P.17 参照)

スクリーンサイズ (inch)	スクリーンまでの高さ[H] (cm)
60	19 ~ 44
80	26 ~ 59
100	32 ~ 74
120	39 ~ 89
150	49 ~ 111
200	65 ~ 145

各種の設置方法

1. 卓上置き設置



スクリーンに投影し、正面から見る場合で、通常ある高さの台にのせて設置します。

本機の底面からレンズの中心までの距離は8cmです。従って、使用するスクリーンによって決まる[H]の値と、のせる台の高さにより、床からスクリーン下端までの寸法が求められます。

例として、本機を床上高さ50cmのテーブルに置いた時の、床からスクリーン下端までの寸法は、50cm + 8cm + [H]となります。

アジャスターによる調整

卓上設置の場合の、スクリーン上の映像の位置の微調整は底面のアジャスターを使って行うことができます。

本体前部底面の2本のネジ式の可動足をまわすと高さが変わります。適宜調整ください。なお、可動足の可変範囲は2.5cmです。それ以上ゆるめると可動足がはずれますのでご注意ください。

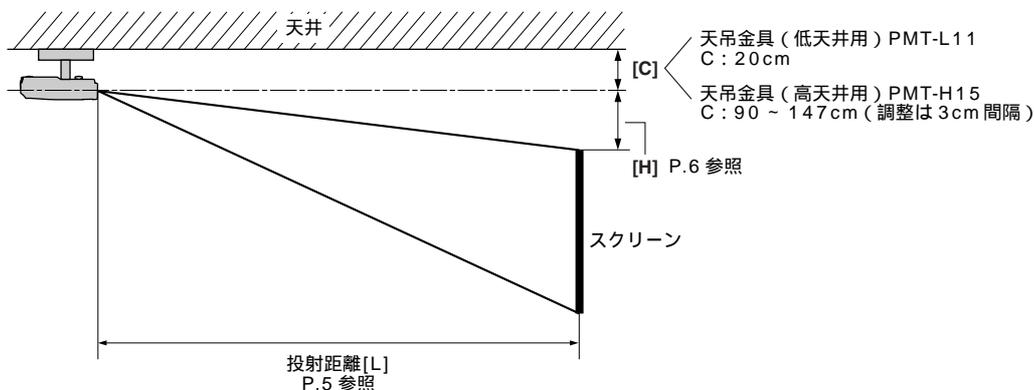
2. 天井吊り設置

ご注意

- お客様による天井への取付け工事は、一切行わないでください。工事は必ずお買上げ店、または信頼のできる専門の工事業者へ依頼してください。

天井吊りにする場合は、専用の天吊金具（別売）が2種類用意されています。仕様についてはお買上げ店にご相談ください。スクリーンとの関係は、卓上置き設置の場合を上下反転した形となり、下図を目安にしてください。天井からスクリーン上端までの寸法は、使用するスクリーンによって決まる[H]の値と天吊金具によって決まる[C]の値の和となります。

天井吊りにした場合「メニュー」の④ 設置 の設置状態の項目で、フロント / 天吊りの設定をしてください。(P.17 参照) 後述のスクリーンアスペクトで16:9の設定をしている場合は、「メニュー」の中のデジタルレンズシフトにより、投影されている映像を所定範囲で上下に調整することができますので活用ください。詳しくはP.6を参照ください。



3. 裏側からの投射

半透過性スクリーンに投影し、裏側から見る場合です。投射距離やスクリーンの高さなどの関係は、正面設置の場合に準じます。この場合は「メニュー」の④ 設置 の設置状態の項目で、リア / テーブルカリア / 天吊りの設定をしてください。(P.17 参照)

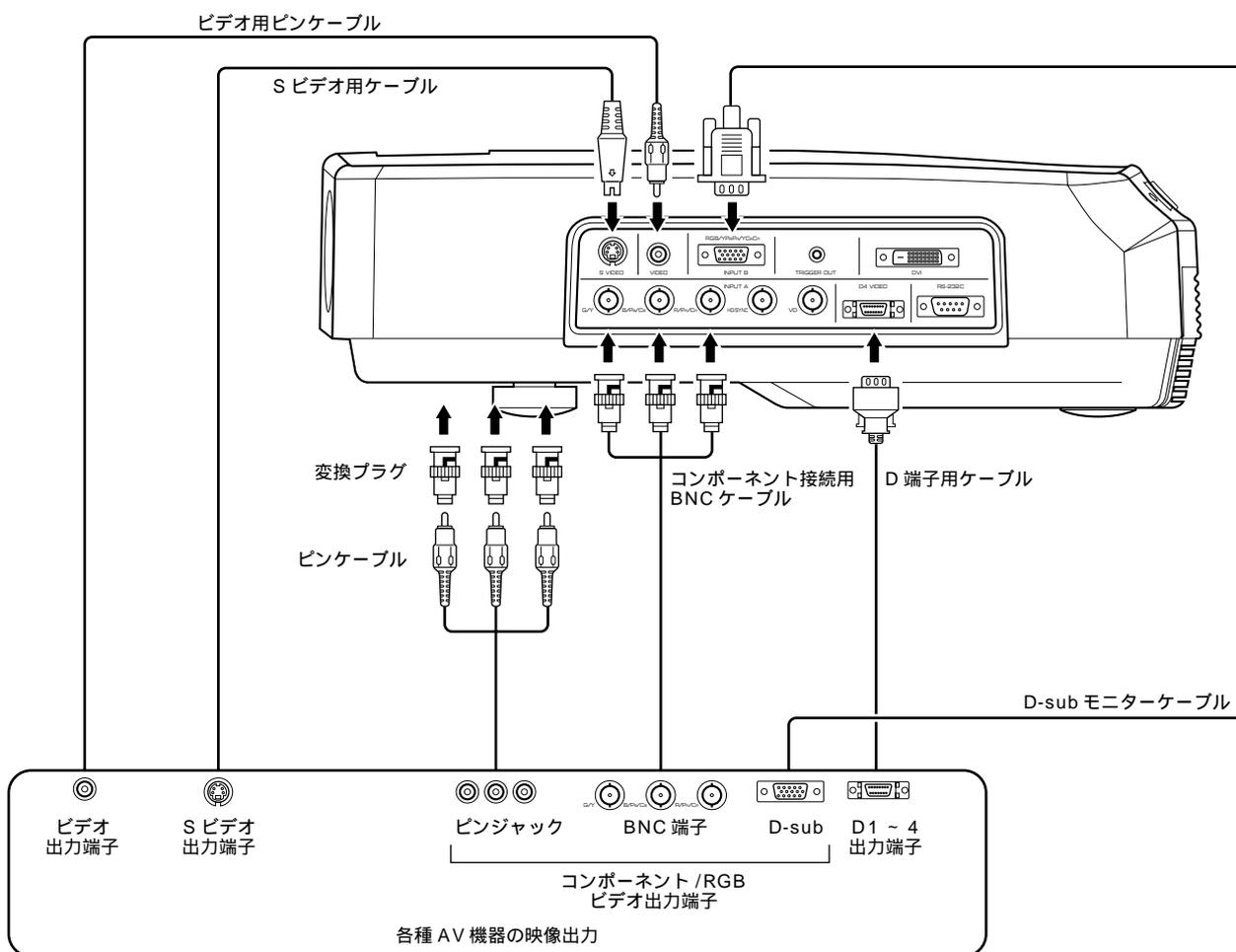
接続するには

- 接続を始める前に、必ず本機および接続する各機器の電源を切ってください。
- 接続する機器によって、接続方法や端子名が異なる場合があります。その取扱説明書も併せてご覧ください。
- プラグはノイズやトラブルの原因にならぬように確実に差込んでください。

AV 機器との接続

本機の AV 機器用のビデオ入力端子は、下記の 5 種類が用意されています。接続には、それぞれの端子形状に合った正しいケーブルや変換のためのアダプターを使用し、図に従って AV 機器の映像出力信号を本機に接続してください。

入力	信号の種類	端子形状
VIDEO	コンポジットビデオ	ピンジャック
S VIDEO	S ビデオ	ミニ DIN 端子
INPUT A	コンポーネントビデオ / RGB ビデオ	BNC 端子 × 3 ~ 5
INPUT B	コンポーネントビデオ / RGB ビデオ	D-sub 15 ピン
D4 VIDEO	コンポーネントビデオ	D 端子



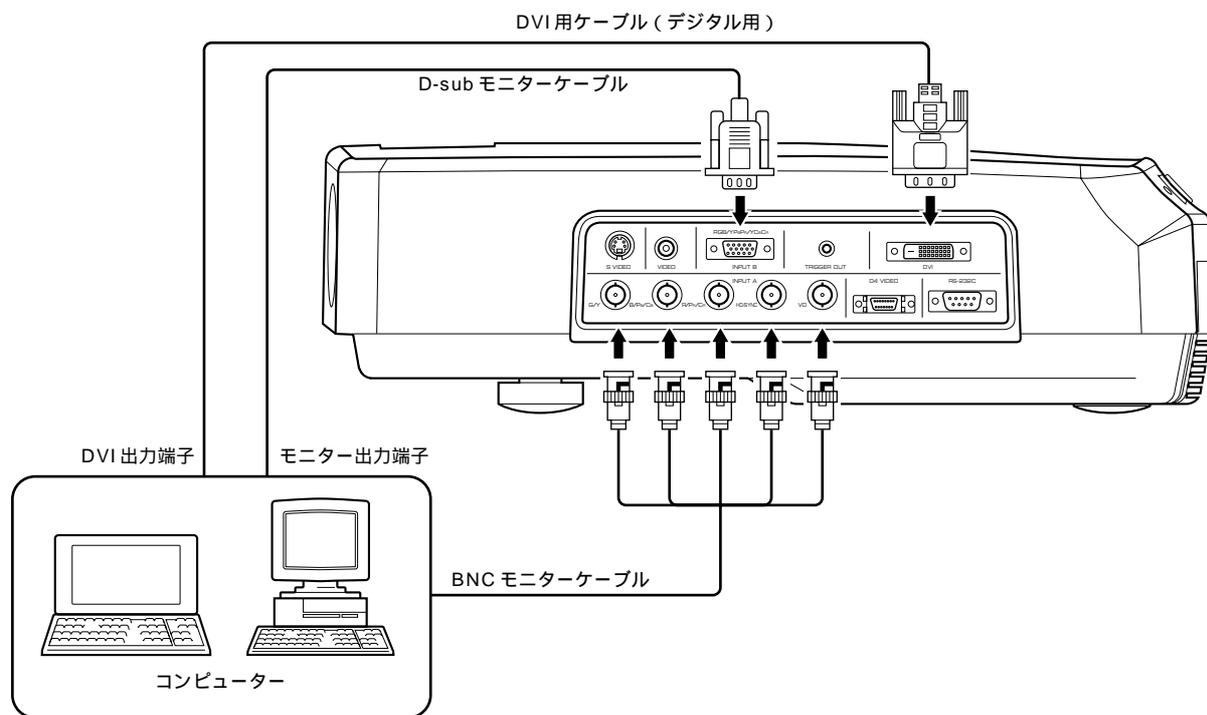
メモ

- INPUT A に AV 機器のコンポーネント信号を接続する際は、Y/P_B/P_R または Y/C_B/C_R の記号にそれぞれ対応する端子に間違いのないように接続してください。併せて接続する機器の取扱説明書も参照ください。なお、RGB ビデオの場合は HD/SYNC、VD への接続が必要な場合もあります。

コンピューター機器との接続

本機とコンピューター機器との接続には、下記の3種類が用意されています。接続には、それぞれの端子形状に合った正しいケーブルを使用してください。

入力	信号の種類	端子形状
INPUT A	RGB アナログ	BNC 端子× 5
INPUT B	RGB アナログ	D-sub 15 ピン
DVI	RGB デジタル	DVI 端子



メモ

- 入力される映像信号についての詳細な設定は、後述の「メニュー」の② 信号 の項目 (P.16) を参照して行ってください。

基本操作について

設置と接続の終わった段階で、投影するための本機の基本操作を説明します。

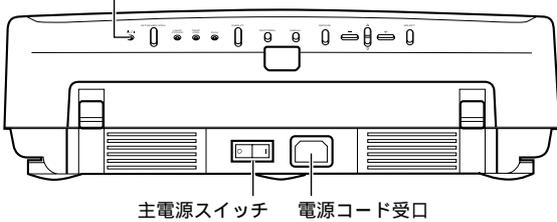
本機は、設置状態・スクリーン・入力信号など使用状況に合わせて、後述する「メニュー」で詳細な設定をする必要があります。次項以下、順序に従ってそれらの設定を行ってください。

電源を入れる

操作を始める前に必ずレンズキャップをはずしてください。

1. 付属の電源コードを本体背面の電源コード受口に接続し、先端のプラグをコンセントに差込みます。

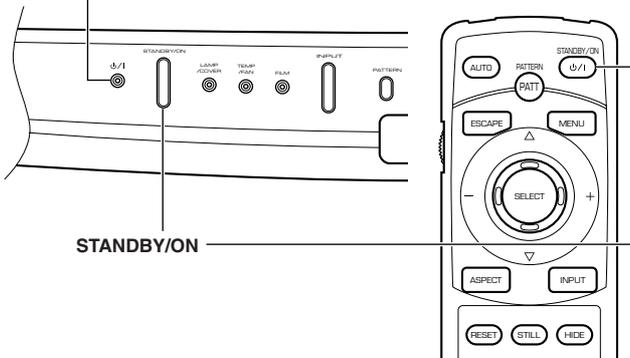
⏻/⏪インディケータ



2. 背面の主電源スイッチを入れます。数秒後に⏻/⏪インディケータが赤色に点灯します。

3. STANDBY/ONボタンを押すと、⏻/⏪インディケータが緑色で点滅し、光源のランプが点灯します。
約30秒後にインディケータは点滅から点灯になり、投影の準備が整います。

⏻/⏪インディケータ
(緑点滅 点灯)

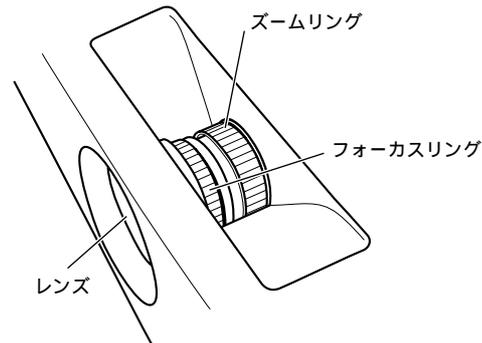
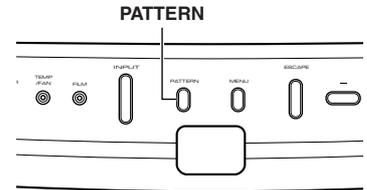


ご注意

- ⏻/⏪インディケータが緑色で点滅または点灯している間は、絶対に主電源スイッチを切ったり電源コードを抜いたりしないでください。ランプに著しくダメージを与え寿命低下や故障の原因となります。

ピントを合わせる

PATTERNボタンを押して、内蔵テストパターンをスクリーンに映写し、レンズのフォーカスリングをまわしてピントを調整します。また、ズームリングにより画像のサイズが調整できます。



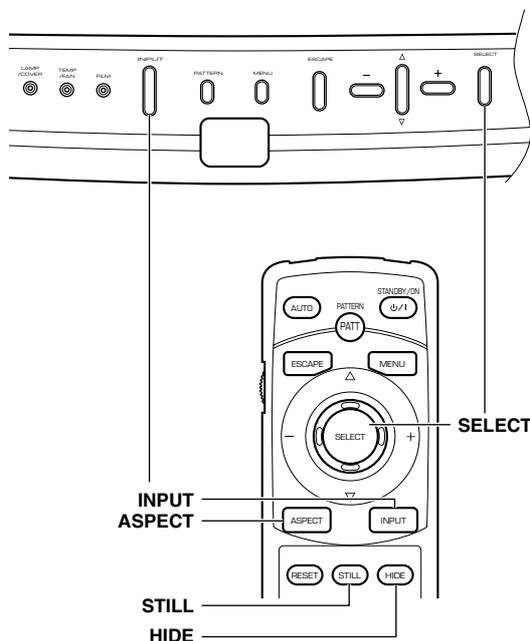
このテストパターンは、カーソルボタンの+、-により二つのパターンを選ぶことができます。

再びPATTERNボタンを押すとテストパターンは消えます。

入力を選ぶ

INPUT ボタンを押すと、入力信号に関するメニューがスクリーンに表示されます。この中から投影する端子名及び入力信号をカーソルボタン△、▽で選び、SELECT ボタンを押し確定します。

入力ソース	投影する映像信号
VIDEO	VIDEO端子に入力されたAV機器からのコンポジットビデオ信号
S VIDEO	S VIDEO端子に入力されたAV機器からのSビデオ信号
INPUT A <コンポーネント>	INPUT AのBNC端子に入力されたコンポーネント信号
INPUT A <RGB PC>	INPUT AのBNC端子に入力されたコンピューター機器からのRGB信号
INPUT A <RGB TV>	INPUT AのBNC端子に入力されたAV機器のRGB信号
INPUT B <コンポーネント>	INPUT BのD-sub15ピン端子に入力されたコンポーネント信号
INPUT B <RGB PC>	INPUT BのD-sub15ピン端子に入力されたコンピューター機器からのRGB信号
INPUT B <RGB TV>	INPUT BのD-sub15ピン端子に入力されたAV機器のRGB信号
DVI	DVI端子に入力されたコンピューター機器からのデジタルRGB信号
D4 VIDEO	D4 VIDEO端子に入力されたAV機器からのコンポーネント信号



メモ

- 本機は、通常のビデオ信号や毎秒24コマの映画ソフトのインターレース映像信号が入力されると、内蔵のインターレース/プログレッシブ(i/p)変換回路が自動的に識別し、映画ソフトの場合はそれを検出して青色のFILMインディケーターが点灯します。なお、コンテンツによっては、正常に検出できない場合もあります。
- AV機器からのプログレッシブ信号又はコンピューター信号が入力された場合は、i/p変換回路は通さずFILMインディケーターは点灯しません。
- 本機のコンピューター用RGB信号入力はVGA、SVGA、XGA、SXGAに対応していますが、よりクリアな画像を得るためには4:3スクリーンアスペクトモードでXGAに設定することを推奨します。
- ノート型PCなどで、出力信号をPCの液晶ディスプレイと外部モニターの両方から出力する設定にすると、映像が外部モニターに正しく出ない場合があります。この場合には外部モニターのみを設定にしてください。詳しくは、コンピューターの取扱説明書を参照ください。
- 入力信号が切り替わる際、映像が正しく投影されなくなった場合(黒画面のまま、または乱れた映像など)は、リモコン左上のAUTOボタンを押してください。

スタイル——静止画

投影している映像を静止画として見たい場合は、リモコンのSTILLボタンを押します。画質の調整の際に使用すると便利です。戻すには、もう一度STILLボタンを押します。

ハイド——映像消去

投影している映像を一時的に消したい場合は、リモコンのHIDEボタンを押してください。再び映像を出すには、もう一度HIDEボタンを押します。

* VGA、XGA、SXGAは米国International Business Machines Corporationの商標または登録商標です。

* SVGAはVideo Electronics Standards Associationの登録商標です。

基本操作について

表示アスペクトを選ぶ

入力信号に対して、どのような映像を投影するかを決めるのが表示アスペクトです。これは前述のスクリーンアスペクトの設定により選ぶ項目が異なってきます。リモコンのASPECTボタンを押して最適なモードを選んでください。なお本機では入力信号に情報が含まれている場合、それを検出して自動で表示アスペクトを変更できるオートモードをもっています。ご活用ください。

入力される映像信号は一般的に下記のように分類されます。

- ① 通常のテレビやビデオ等の4:3の映像信号
- ② レターボックスの映像信号
- ③ スクイーズされた映像信号(ピスタサイズ)
- ④ スクイーズされた映像信号(シネマスコープサイズ)
- ⑤ ハイビジョン(HDTV)の16:9の映像信号
- ⑥ RGB信号

スクリーンアスペクトで4:3が設定されている場合に選べる表示アスペクト

- ① オート
入力信号がレターボックスかスクイーズの場合、これを検出して自動的に最適モードに切替えます。この切替えは、ソースからその情報が送られてくる場合に行われます。
- ② ノーマル
入力信号のすべてを切捨てることなく水平方向をスクリーンいっぱいに投影するモードです。
- ③ スクイーズ
水平方向を圧縮して収録されたビデオソフトを、もとのアスペクトに戻すモードで、スクイーズされたものは、この回路を経ることにより正常な映像となります。
- ④ ズーム
映像の中心部を拡大するもので、入力映像の両サイドがカットされます。
- ⑤ スルー
入力された信号を拡大・縮小せずにそのまま投影するモードです。
- ⑥ スルー-スクイーズ-
入力された信号の高さ方向を拡大・縮小せずに、幅方向を拡大するモードです。

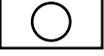
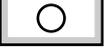
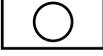
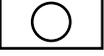
[代表例]

入力信号の種類	入力イメージ	表示アスペクト	投影イメージ
通常の4:3映像		→ ノーマル	→
レターボックス		→ ズーム	↗
		→ ノーマル	→
スクイーズ (ピスタサイズ)		→ スクイーズ	↗
		→ スルー-スクイーズ-	→
スクイーズ (シネマスコープサイズ)		→ スクイーズ	→
		→ ノーマル	→
HDTV		→ ノーマル	→
		→ ズーム	→
RGB PC		→ スルー	→
		→ ノーマル	→

スクリーンアスペクトで 16 : 9 が設定されている場合に選べる表示アスペクト

- ① オート
入力信号がレターボックスかスクイーズの場合、これを検出して自動的に最適モードに切替えます。この切替えは、ソースからその情報が送られてくる場合に行われます。
- ② ノーマル
入力信号のすべてを切捨てることなく垂直方向をスクリーンいっぱい投影するモードです。
- ③ スクイーズ
水平方向を圧縮して収録されたビデオソフトを、もとのアスペクトに戻すモードで、スクイーズされたものは、この回路を経ることにより正常な映像となります。
- ④ ズーム
レターボックスとして入力された映像を 16 : 9 のスクリーンいっぱい投影するモードです。
- ⑤ ズーム-字幕-
字幕付きのレターボックスのビデオソフトを、スクリーン上に最適に投影するモードです。
これには更に次の詳細項目があり、これらはメニューの②信号の中の表示アスペクトのズーム-字幕-の項で調整ができます。操作については P.20 - 特殊なもの - をご参照ください。
 - ・ 字幕範囲
字幕の範囲を調整します。
 - ・ 垂直スクロール
画面を上下に動かして字幕の位置を調整します。
- ⑥ スルー
入力された信号を拡大・縮小せずにそのまま投影するモードです。
- ⑦ スルー-スクイーズ-
入力された信号の高さ方向を拡大・縮小せずに、幅方向を拡大するモードです。

[代表例]

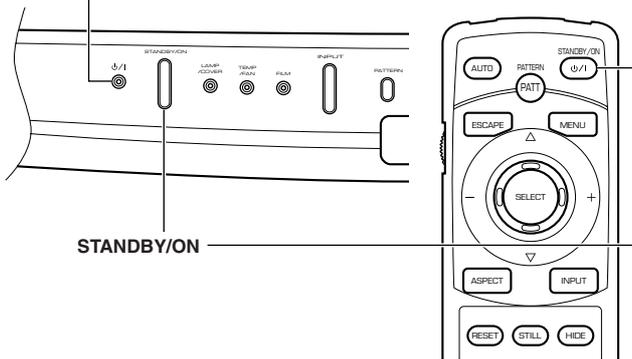
入力信号の種類	入力イメージ	表示アスペクト	投影イメージ
通常の 4 : 3 映像		→ ノーマル	→ 
レターボックス		→ ズーム → ズーム-字幕-	→  → 
スクイーズ (ピスタサイズ)		→ スクイーズ → スルー-スクイーズ-	→  → 
スクイーズ (シネマスコープ サイズ)		→ スクイーズ	→ 
HDTV		→ ノーマル	→ 
RGB PC		→ ノーマル	→ 

基本操作について

電源を切る

1. 使用が終わったら、STANDBY/ON ボタンを押します。
 確認のためのメッセージが表示されますので、電源を切りたい場合はもう一度 STANDBY/ON ボタンを押します。
 ランプが消灯し、ここで約 2 分間、ランプの冷却のためファンが回転し、この間 ①/① インディケータが橙色で点滅します。
 この状態では STANDBY/ON ボタンを押して、再び電源を入れることはできません。

①/① インディケータ
(点滅)



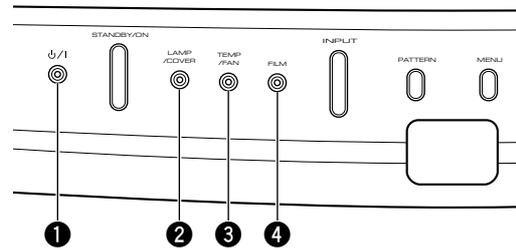
2. 冷却が終ると、ファンは止まり ①/① インディケータは赤色の点灯となります。
3. これを確認してから、主電源スイッチを切ってください。

ご注意

- ・ ファンがまわり ①/① インディケータが橙色で点滅している間は、主電源スイッチを切ったり電源コードを抜いたりしないでください。ランプに著しくダメージを与え寿命低下や故障の原因となります。

インディケータについて

本機には各種の状態を表示するために、4 つのインディケータがあります。



- 1 ①/①

消灯	主電源オフ
赤色点灯	スタンバイ状態
緑色点滅	動作準備中
緑色点灯	動作中
橙色点滅	ランプ冷却中
- 2 LAMP/COVER

消灯	正常
赤色点灯	ランプカバー装着不完全の場合
	エアフィルターカバー装着不完全の場合
赤色点滅 (1 秒間隔)	ランプの使用時間が 1000 時間を超えた場合
赤色点滅 (0.5 秒間隔)	ランプの使用時間が 1100 時間を超えた場合
	ランプが切れた場合
- 3 TEMP/FAN

消灯	正常
赤色点灯	内部温度が異常な高温になった場合
赤色点滅	冷却用ファンが故障した場合
- 4 FILM

青色点灯	毎秒 24 コマの映画ソフトのインターレース信号 (480i) を検出してプログレッシブ処理を行なっている時に点灯
消灯	その他の映像信号入力の場合

メニューの構成

本機では、それぞれの状況にあわせて最適な動作を行なうために、種々の「メニュー」の設定が必要です。メニューには4つのメニューグループがあり、各グループの中にメニューアイテムが含まれています。さらにいくつかのアイテムにはサブメニューもあり、3階層になっています。

メニューグループとして次の4つに分類されます。

- ① 画質 の設定 投影される映像の画質を調整します。入力信号の種類により、調整項目は異なります。
- ② 信号 の設定 接続される入力信号について設定します。入力信号の種類により、設定項目は異なります。
- ③ 初期 の設定 電源が入った時の使用状態を、いくつかの項目について予め設定しておきます。
- ④ 設置 の設定 本機の設置方式や台形補正、使用するスクリーンのアスペクトなどを設定します。

各メニューグループには下記の項目があり、状況や好みに応じて種々の調整・設定・選択が可能です。P.18以降に記載されているメニューの操作方法の手順に従ってそれらを行ってください。

項目中、**S**はサブメニューがあるものを示します。

① 画質 の設定 入力信号がない状態ではこの設定はできません。

入力信号	項目	調整範囲
Video/Component RGB TV	ブラックレベル 入力されるソフトの黒のレベルを、白のピーク輝度を保ったまま、調整する場合に用います。	-64 ~ 32
Video/Component/ RGB	コントラスト 画像の明暗比のこと。コントラストを上げすぎると、全般に画面が明るくなり白とび部分が増え、逆に下げすぎると全般に暗い平板な画像となります。	-128 ~ 127
Video/Component/ RGB	ブライトネス 画像全体の明るさのこと。ブライトネス（輝度）を上げすぎると黒が浮き画像の白の部分が増え、下げすぎると全体が暗くなります。	-128 ~ 127
上記3つのメニューアイテムは、いずれも映像の明るさに関する輝度信号の入出力特性を下図のように変化させるものです。調整の際の参考にしてください。		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div> <p>ブラックレベル</p> </div> <div> <p>コントラスト</p> </div> <div> <p>ブライトネス</p> </div> </div>		
Video/Component/ RGB	ガンマ補正 画像の色調や階調の応答特性を変えるもので、対応する五つのパターンが用意されています。ご覧になるコンテンツに合わせて適切なものを選んでください。	A/B/C/D/E
Video/Component/ RGB	シャープネス 投影される映像の縁取りをくっきりさせる場合に用い、数値を大きくするとその度合いが増加します。数値を下げると映像を柔らかくソフトに表現したり、ノイズ成分を押えることができます。好みに応じて設定してください。	1 ~ 5
Video	色あい 色相あるいは色合いの設定のことで、マイナスに調整することにより赤の方向に、プラスに調整することにより青の方向にシフトします。(SECAMでの設定は無効となります。)	-128 ~ 127
Video	色の濃さ 色の濃さを現す彩度のことで、マイナス方向で色が薄く、プラス方向で色が濃く表現されます。	-128 ~ 127
Component	カラーブースト 色の彩度を増強します。数値を増やすと色が飽和気味となり濃く表現されます。	0 ~ 127
Video/Component/ RGB	色温度 投影される映像の色味を調整する項目で、高すぎると青っぽく低くと赤っぽく変化します。ご覧になる映像コンテンツに合わせてお選びください。	低 / 中低 / 中 / 高
Video/Component/ RGB	ホワイトバランス S RGB各色のバランスを微調整するものです。 コントラスト (R, G, B) ブライトネス (R, G, B)	50 ~ 124% -12.4 ~ 12.4%
Video/Component/ RGB	ホワイトブースト 投影される映像の白の部分の輝きを光学的に変化させる項目で、好みに応じて設定してください。	0 ~ 10

メニューの構成

② 信号 の設定 入力信号がない状態ではこの設定はできません。

入力信号	項目	選択・調整範囲
Video/Component/ RGB	表示アスペクト S 入力信号に対して、どのような縦横比の映像を投影するかを設定します。自動的に最適モードに切替えるオートや、入力信号をそのままの形で投影するノーマル（スルー）、スクイーズされた映像を元に戻すスクイーズ、ある比率で拡大するズーム、字幕を表示するズーム・字幕、幅方向のみ拡大するスルー・スクイーズなどがあり、これらはスクリーンアスペクトの設定や信号の種類により選ぶ項目が異なってきます。 オートを選択していても入力ソースの状態によっては最適モードに切り替わらない場合があります。その場合はマニュアル選択してください。 ズーム・字幕には次の詳細メニューがあります。 字幕範囲：字幕の範囲の調整 垂直スクロール：字幕の位置の調整	オート / ノーマル / スクイーズ / ズーム / ズーム・字幕 - S 字幕範囲、垂直スクロール) / スルー / スルー・スクイーズ - 0 ~ 最大 99 0 ~ 最大 99
Video/Component	字幕マスク レターボックスで字幕付きの映画ソフトを投影する場合、字幕の文字の明るさを暗くするものです。(HDTVは除く)	オフ / オン
Video/Component	字幕マスク位置 字幕をマスクする高さ方向の位置を調整します。(HDTVは除く)	-10 ~ 10
Video	3次元Y/C分離 ビデオ入力時、特に細かな縦縞の映像に現れる虹状のクロスカラーや、輪郭部の目障りなドット妨害を押えます。この選択はコンポジット入力でのNTSC方式のみ有効です。	オフ / オン
Video/Component	ノイズリダクション 比較的ノイズが多いソースの場合、その輝度信号と色信号に含まれるノイズやざらつき等をデジタル処理で効果的に抑え、より鮮明な映像を投影することができます。ソースに応じて適宜選んでください。(インターレース信号のみ、HDTVは除く)	オフ / 1 / 2 / 3
Video	ビデオタイプ 入力するビデオソースがビデオテープの再生映像の場合、同期を確実にする為にVCRを選んでください。その他のソースの場合はDVDに設定してください。	DVD/VCR
Video/Component	セットアップレベル 映像信号の黒レベルの位置の違いを補正する為の項目で、厳密に言うと、ペDESTALレベルとの差のない信号は0%、黒位置の高い信号は7.5%に設定します。	0% / 7.5%
RGB	ドットフェーズ コンピューター機器から入力されるRGB信号の位相を微調整する項目で、画像の文字や線が最もはっきり見えるポジションにあわせます。(DVIを除く)	0 ~ 31
RGB	水平サイズ 表示する画像の水平方向のサイズを調整します。(DVIを除く)	-2047 ~ 2048
RGB	水平シフト 表示する画像の水平方向の位置を調整します。(DVIを除く)	0 ~ 100
RGB	垂直シフト 表示する画像の垂直方向の位置を調整します。(DVIを除く)	0 ~ 100
RGB	信号ステータス 入力信号の解像度と同期周波数を表示します。	-

③ 初期 の設定

項目	選択
カラー方式 S ビデオ入力時のカラー方式を選択する項目で、NTSC、NTSC _{4.43} 、PAL、PAL-M、PAL-N、PAL60、SECAMの中から適切なものを選びます。通常はオートにしておくと、方式を判別して自動的に切替わります。PAL-MはAUTO対象外ですので入力信号がPAL-Mの場合はPAL-Mに設定してください。	オート / NTSC / NTSC _{4.43} / PAL / PAL-M / PAL-N / PAL60 / SECAM
INPUT A 信号 S A入力端子に入力される信号の種類を選択します。	コンポーネント / RGB PC / RGB TV
INPUT B 信号 S B入力端子に入力される信号の種類を選択します。	コンポーネント / RGB PC / RGB TV
メニュー表示言語 S メニューの画面に表示される言語を選択します。	日本語 / ENGLISH / DEUTSCH / ESPAÑOL / FRANÇAIS / ITALIANO / 中文
パワーセービング 入力端子に信号が無い状態が15分間続いた場合に、ランプを切りスタンバイにします。	オフ / オン
ランプ使用時間 S ランプの積算使用時間を表示します。サブメニューを開くと使用時間のリセットができます。	-
リセット S メニューの各項目の設定などをすべて初期設定値に戻したり、メモリーとして設定した値をリセットしたりします。	全ての設定 / 全てのメモリー / 現在選択中のメモリー

④ 設置 の設定

項目	選択・調整範囲
設置状態 S 本機を設置するには、スクリーンの正面から投影する卓上置き、天井吊り、そして裏側からの卓上置き、天井吊りと四種類があります。この設置方法を設定することにより画像の逆転・反転を行いません。	フロント / テーブル、フロント / 天吊り、リア / テーブル、リア / 天吊り
スクリーンアスペクト 使用するスクリーンに応じて、4:3か16:9を選んで設定をしてください。ここで16:9に設定した場合には次項のデジタルレンズシフトによる調整が可能となります。また、4:3の入力映像をスクリーンからはみ出すことなく投影するように自動で調整します。	4:3 / 16:9*
*デジタルレンズシフト S スクリーン上の映像の縦方向の位置を、所定の範囲内でデジタル処理により上下に調整することができます。△で上方向に、▽で下方向に移動します。但し、この調整はスクリーンアスペクトで16:9の設定をしている場合にのみ有効です。	-96 ~ 96
台形補正 本機設置時に、スクリーンに対して投影角度が仰角または俯角を持っていると画面が台形に歪みます。この歪みを電子的に補正するのが台形補正で、上が広い場合はプラスに、下が広い場合はマイナス方向に調整してください。	-128 ~ 127
台形補正モード 画像の縦の長さを変えずに補正を行なうフルと、その補正と同時に画面の下端を関連させてシフトするノーマルの二種類があります。この台形補正には、次の2種類があります。設置の状況に応じて、適切な補正を行なってください。	ノーマル / フル

① ノーマル補正

水平方向の歪みを補正すると同時に、画面の下端を関連させてシフトする。

画像の上方が広がる場合



数値をプラス (+) 方向に補正します。

画像の下方が広がる場合



数値をマイナス (-) 方向に補正します。

② フル補正

画面の垂直方向の長さを変えずに、水平方向の歪みを補正する場合。

画像の上方が広がる場合



数値をプラス (+) 方向に補正します。

画像の下方が広がる場合



数値をマイナス (-) 方向に補正します。

リモコン受光部 **S**

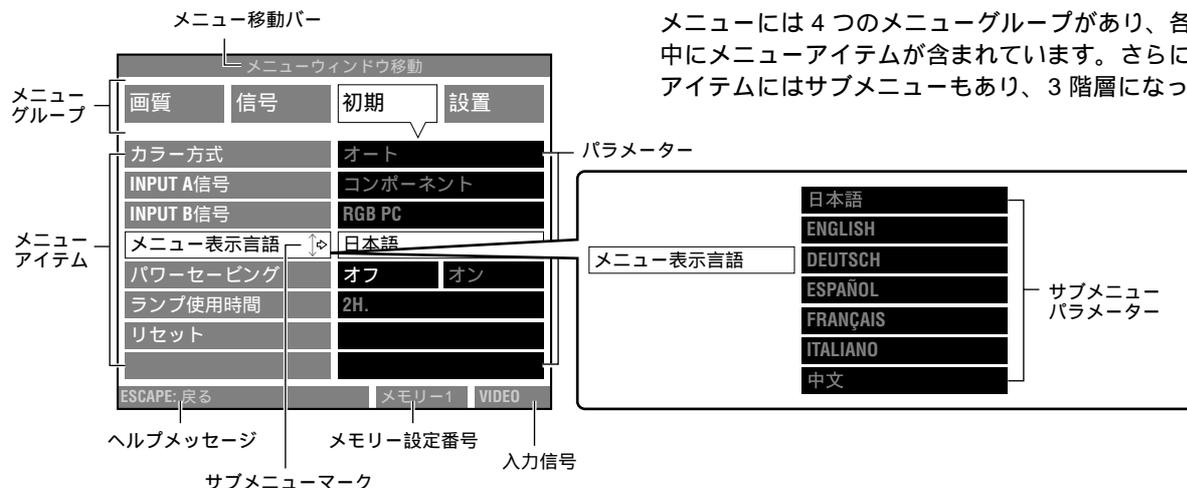
本機には、リモコンからの光線を受光するセンサーが前後二箇所にあります。これを切替える設定です。

前 & 後 / 前 / 後

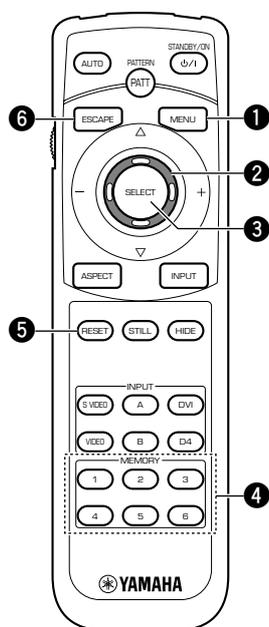
メニューの操作方法

メニュー画面と操作ボタン

メニュー画面の構造とメニューを操作するためのリモコンと本機コントロール部のボタンのはたらきを説明します。メニュー操作を正しく効率的におこなっていただくための基本的な情報ですので、操作を始める前に必ずお読みください。



メニューには4つのメニューグループがあり、各グループの中にメニューアイテムが含まれています。さらにいくつかのアイテムにはサブメニューもあり、3階層になっています。



① MENU ボタン

メニューを開いたり、閉じたりします。

② カーソルボタン

+ / - (カーソルの左右移動)

- メニューグループを選びます。
- サブメニューを開いたり、閉じたりします。
- 設定値を選んだり変更したりします。

△/▽ (カーソルの上下移動)

- メニューアイテムを選びます。
- 設定値を選んだり変更したりします。

③ SELECT ボタン

- サブメニューを開きます。
- 変更した設定値を確定します。(“カラー方式”、“Input A 信号”、“Input B 信号”、“リモコン受光部”を設定する場合)
- メニューが開いていない状態で、ワンタッチ画質メニューを開きます。

④ MEMORY 1 ~ 6 ボタン (リモコンのみ)

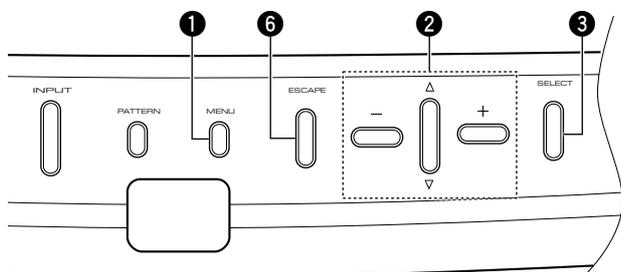
メモリー設定を選びます。

⑤ RESET ボタン (リモコンのみ)

パラメーターの値を初期設定に戻します。(初期設定のないアイテムは戻りません。)

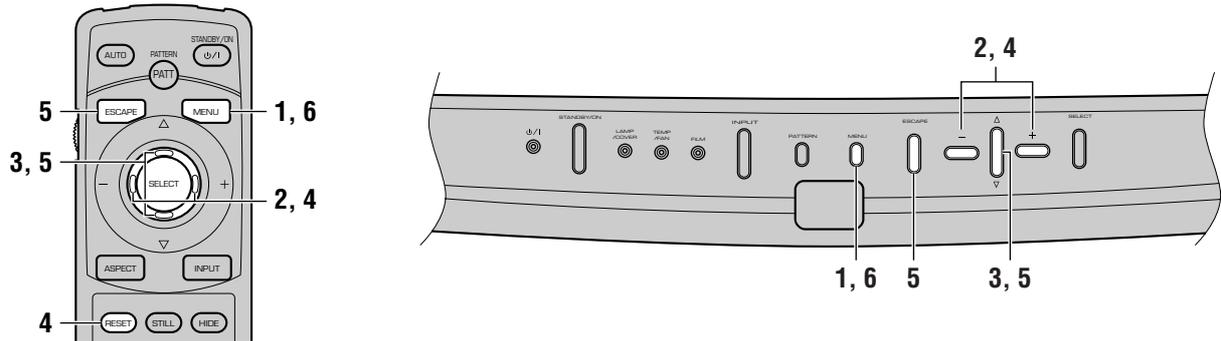
⑥ ESCAPE ボタン

- カーソルをメニューアイテムの階層からメニューグループの階層に戻します。
- サブメニューを閉じます。
- カーソルがメニューグループにあるとき、メニュー画面を閉じます。
- メニューを移動した後、メニュー移動バーからメニュー入力画面に戻します。



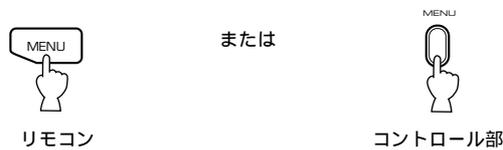
メニューの基本操作

正しく投影するためにまずメニューグループ 設定 の設定・調整から行ってください。

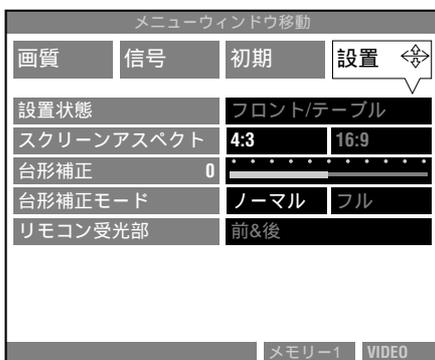
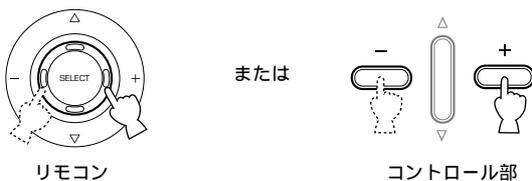


1. MENU ボタンを押して、メニュー画面を開きます。

既にメニュー画面を開いている場合は、前回メニュー操作を終えた画面が開きます。

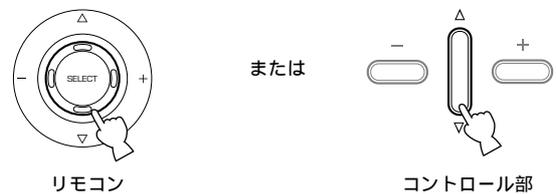


2. + または - ボタンを押して、メニューグループを選びます。



3. ▽ ボタンを押して、メニューアイテムの階層へ入ります。

△ または ▽ ボタンを押して設定したいアイテムを選びます。



4. + または - ボタンを押して、お好みの設定をします。



メニューの操作方法

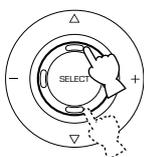
アイテムによって、ゲージの数値を増減する場合と文字または数字を選ぶ場合があります。



RESET ボタンを押すと、選んでいるアイテムの設定が、初期設定に戻ります。(初期設定のないアイテムは戻りません。)

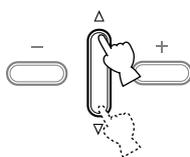
5. △または▽ボタンを押して、次に設定するアイテムへ移ります。

別のメニューグループのアイテムを設定したい場合は、ESCAPE または △ ボタンで、今いるメニューグループに戻ります。手順 2、3、4 にしたがって設定をおこなってください。



リモコン

または



コントロール部

6. 設定が終わったら、MENU ボタンを押してメニュー画面を閉じます。



リモコン

または



コントロール部

サブメニューについて

サブメニューがあるメニューアイテムは下表の通りです。選んだメニューアイテムによって操作手順が異なりますので、該当する操作手順グループの手順に従ってサブメニュー操作をしてください。

サブメニューのあるメニューアイテム

メニューグループ	メニューアイテム	操作手順グループ
画質	ホワイトバランス	C
信号	表示アスペクト*	A
初期	カラー方式	B
	INPUT A 信号	B
	INPUT B 信号	B
	メニュー表示言語	A
	ランプ使用時間	D
	リセット	D
設置	設置状態	A
	デジタルレンズシフト	A
	リモコン受光部	B

操作手順 A：SELECT または + ボタンでサブメニューを開きます。△ または ▽ ボタンでサブメニューのパラメーターを選んで、ESCAPE または - ボタンでサブメニューを閉じます。

操作手順 B：SELECT または + ボタンでサブメニューを開きます。△ または ▽ ボタンでサブメニューのパラメーターを選んで、SELECT ボタンで設定を確定し、サブメニューを閉じます。

操作手順 C：+ または - ボタンでパラメーターを選びます。SELECT または + ボタンでサブメニューを開きます。△ または ▽ ボタンでサブメニューアイテムを選んで + または - ボタンで値を設定します。

SELECT ボタンで設定を変更する必要はありません。

操作手順 D：SELECT または + ボタンでサブメニューを開きます。サブメニューがメッセージ形式になっていますので、その指示に従って操作をすすめます。(P.22, 23 参照)

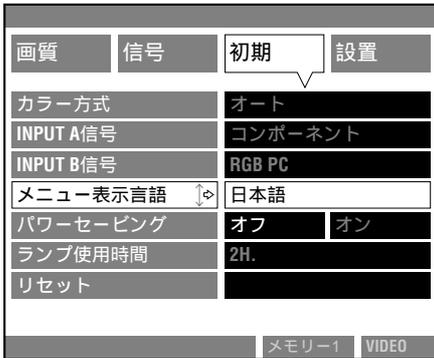
- 特殊なもの -

- * メニューグループ 設置 のメニューアイテム “スクリーンアスペクト” で 16 : 9 に設定されている場合
“表示アスペクト” でサブメニューを開き、“ズーム・字幕” を選ぶと、お好みの設定をしていただくために、さらに詳細メニューアイテムがあります。SELECT または + ボタンで詳細メニューを開きます。“垂直スクロール” と “字幕範囲” の 2 つのメニューアイテムがあります。△ または ▽ ボタンで設定するアイテムを選んだら、+ または - ボタンで値を設定します。設定が終わったら ESCAPE ボタンで詳細メニューを閉じます。

サブメニューの基本操作

[操作手順 A, B]

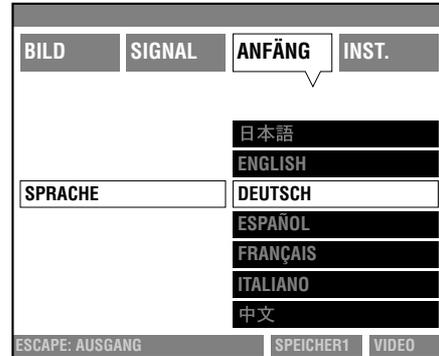
1. 「メニューの基本操作」の手順 1 ~ 3 にしたがって設定したいメニューアイテムを選びます。
サブメニューマーク “⇄” がアイテムの右側に表示されず。



2. SELECT または + ボタンを押して、サブメニューを開きます。



3. △ または ▽ ボタンを押して、お好みの設定をします。



リモコンのRESET ボタンを押すと、選んでいるアイテムの設定が初期設定に戻ります。(初期設定のないアイテムは戻りません。)

“カラー方式”、“Input A 信号”、“Input B 信号”、“リモコン受光部”を設定している場合には以下の手順Bが必要です。

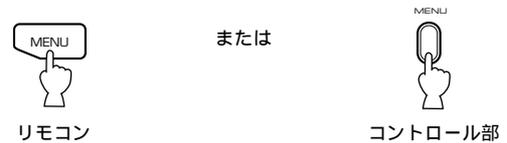
[操作手順 B のみ]

設定が終わったら、SELECT ボタンを押してください。新しい設定が確定され、前の画面に戻ります。上記アイテムについては、設定を SELECT ボタンで確定しないと、設定は変わりません。



初期設定に戻りたいときは、サブメニューが開いた状態で RESET ボタンを押してください。

4. 設定が終わったら MENU ボタンを押してメニュー画面を閉じます。



設定を続ける場合は、ESCAPE または - ボタンを押して前の画面に戻ってください。

メニューの操作方法

サブメニュー操作 - “ホワイトバランス”を設定する場合

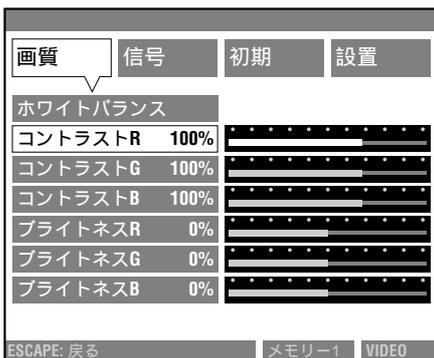
[操作手順 C]

1. 「メニューの基本操作」の手順1～3にしたがってメニューグループ 画質 のメニューアイテム“ホワイトバランス”を選びます。

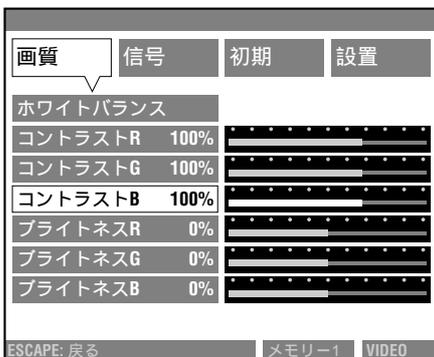
サブメニューマーク“↕”がアイテムの右側に表示されません。



2. SELECT または + ボタンを押してサブメニューを開きます。

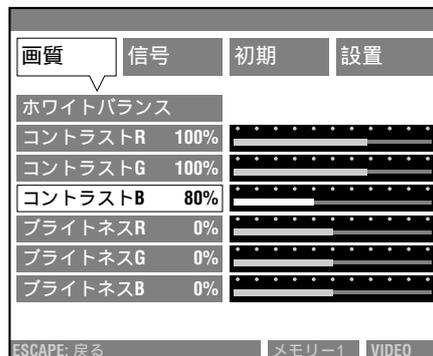


3. △ または ▽ ボタンを押して、サブメニューアイテムを選びます。



4. + または - ボタンを押して、ゲージの数値を増減させてお好みの設定にします。

RESET ボタンを押すと、選んでいるパラメーターの設定が初期設定に戻ります。



5. MENU ボタンを押して、メニュー画面を閉じます。

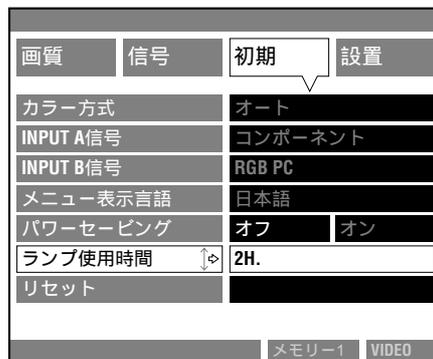
設定を続ける場合は、ESCAPE ボタンを押して前の画面に戻ってください。- ボタンでは戻れません。

サブメニュー操作 - “ランプ使用時間”をリセットする場合

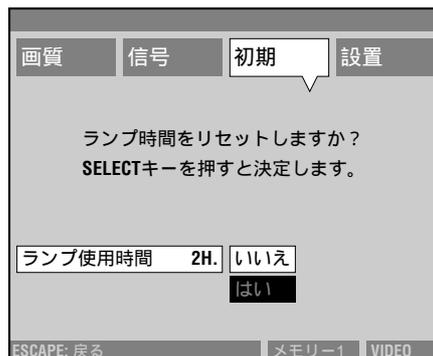
[操作手順 D]

1. 「メニューの基本操作」の手順1～3にしたがってメニューグループ 初期 のメニューアイテム“ランプ使用時間”を選びます。

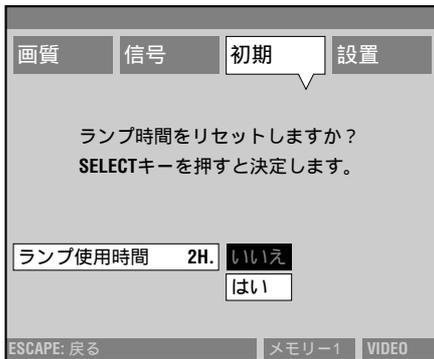
サブメニューマーク“↕”がアイテムの右側に表示されます。



2. SELECT または + ボタンを押して、メッセージ画面を開きます。



3. △または▽ボタンで「はい」を選んでSELECTボタンを押します。
ランプの使用時間が0時間に戻ります。

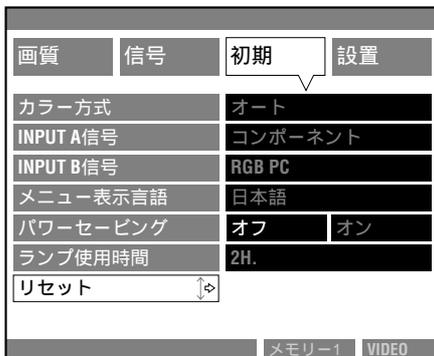


4. MENUボタンを押して、メニュー画面を閉じます。

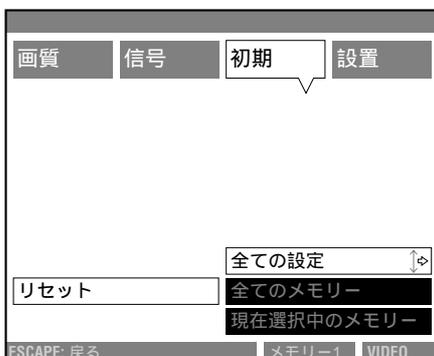
サブメニュー操作 - “リセット” をする場合

[操作手順 D]

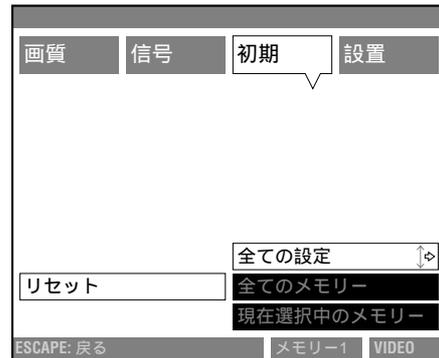
1. 「メニューの基本操作」の手順1～3にしたがってメニューグループ 初期 のメニューアイテム“リセット”を選びます。
サブメニューマーク“↕”がアイテムの右側に表示されます。



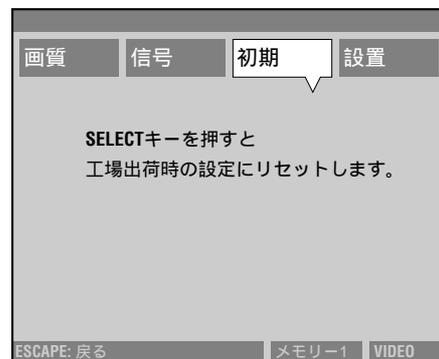
2. SELECTまたは+ボタンを押して、サブメニューを開きます。



3. △または▽ボタンを押して、リセットしたいサブメニューアイテムを選びます。



4. SELECTまたは+ボタンを押して、メッセージ画面を開きます。



5. SELECTボタンを押して初期設定に戻します。
初期設定に戻ってメニューが閉じます。

メニューの操作方法

ワンタッチ画質メニュー

1. メニュー画面が開いていない状態で、SELECT ボタンを押します。
画質メニューアイテムが画面下部に 1 つずつ表示されます。
5 秒以内に操作しないと、メニュー表示は消えます。



2. △ または ▽ ボタンを押して、設定したいアイテムを選びます。

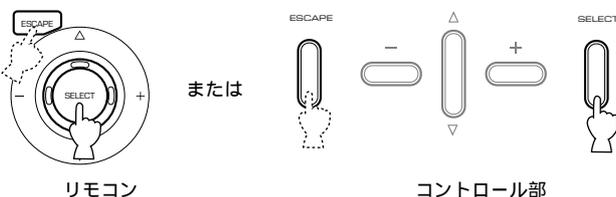


3. + または - ボタンを押して、お好みの設定をします。



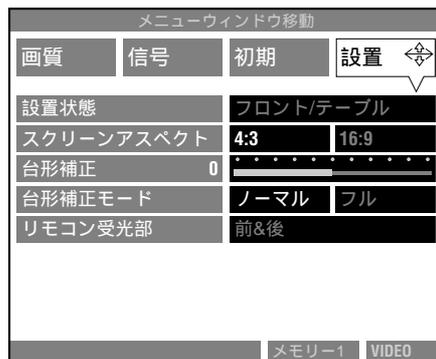
RESET ボタンを押すと、選んでいるアイテムの設定が初期設定に戻ります。

4. 設定が終わったら、SELECT または ESCAPE ボタンを押してメニュー表示を閉じます。



メニュー画面の移動

1. ESCAPE または △ ボタンを押して、カーソルをメニューグループのいずれかへ移動します。



2. △ ボタンを押して、“メニューウィンドウ移動”に入ります。



3. +、-、△、▽ ボタンを押して、メニュー画面を上下左右に移動します。



4. お好みの位置へ移動したら、ESCAPE ボタンを押して、メニュー入力画面に戻ります。



メモリー機能について

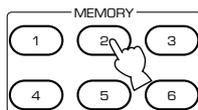
入力ソースに最適なメニュー設定を6通りメモリーしておくことができます。メモリーできるメニューアイテムは下記の通りです。メモリー番号の1～6には、それぞれ初期設定がメモリーされています。入力ソースに合わせてお好みの設定を選んでください。また、それぞれのメモリー番号にメモリーされているパラメーターの設定をお好みに応じて変更することもできます。

画質	信号
ブラックレベル コントラスト ブライトネス ガンマ補正 シャープネス 色あい 色の濃さ カラーブースト 色温度 ホワイトバランス ホワイトブースト	3次元 Y/C 分離 ノイズリダクション ビデオタイプ セットアップレベル

メモリー番号を選ぶ

リモコンで操作する場合

MEMORY ボタンの1～6の中からお好みのメモリー設定のボタンを押します。

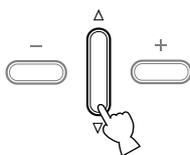


メニューで操作する場合

1. MENU ボタンを押して、メニュー画面を開きます。

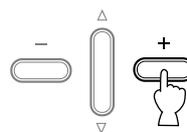


2. ▽ボタンを押して、画面最下部の“メモリー番号ステータス”に入ります。

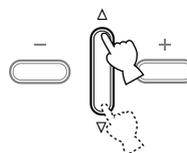


画質	信号	初期	設定
表示アスペクト	オート		
字幕マスク	オフ	オン	
字幕マスク位置	0	
3次元Y/C分離	オフ	オン	
ノイズリダクション	オフ	1	2 3
ビデオタイプ	DVD	VCR	
セットアップレベル	0%	7.5%	
* エディット		メモリー-1	VIDEO

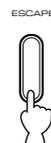
3. + ボタンを押して、サブメニューを開きます。



4. △または▽ボタンを押して、お好みのメモリー設定の番号を選びます。



5. ESCAPE ボタンを押して、サブメニューを閉じます。



メモリー機能について

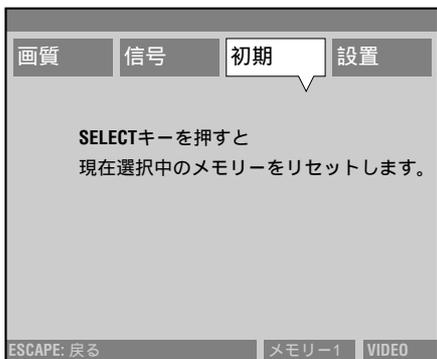
初期設定に戻す

1つのパラメータの場合

P.19の「メニューの基本操作」の手順に従って、初期設定に戻したいパラメータを開きます。リモコンのRESETボタンを押して、初期設定に戻します。(初期設定のないアイテムは戻りません。)

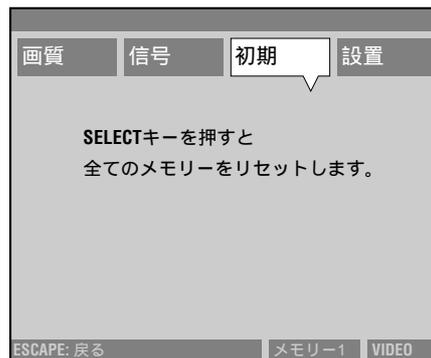
現在選んでいるメモリー番号の全てのパラメータの場合

P.23の「サブメニューの操作 “リセット” をする場合」の手順に従って、サブメニューの “現在選択中のメモリー” を選びます。SELECTまたは+ボタンを押すと確認のメッセージ画面が開きます。SELECTボタンを押して初期設定に戻します。



1～6までの全てのメモリー番号のパラメータの場合

P.23の「サブメニューの操作 “リセット” をする場合」の手順に従って、サブメニューの “全てのメモリー” を選びます。SELECTまたは+ボタンを押して確認のメッセージ画面を開きます。SELECTボタンを押して初期設定に戻します。



用語解説

プロジェクターに関して、映像信号と基本操作に関連したキーワードをまとめてみました。取扱いの際の参考にしてください。

なお、メニューの中の用語については、それぞれの項目で説明がされています。

DLP™ 方式

米国TI社の開発したDMD™素子を用いたプロジェクターの、画像表示エンジンとしての呼称で、Digital Light Processingの略。

コンポーネントビデオ信号

輝度信号と色信号を独立して伝送する方式で、通常のコンポジットビデオ信号に比べ、混合・分離回路を経由しないので高品質の情報が得られる。輝度信号(Y)と二つの色差信号(P_B/C_B, P_R/C_R)の三本のラインで伝送される。

S ビデオ信号

輝度信号(Y)と色信号(C)を分離して伝送する方式で、接続には専用の端子(4ピンミニDIN)とケーブルを使用する。SはSeparateの略。

コンポジットビデオ信号

ビデオ信号の最も一般的な伝送方式で、輝度信号と色信号を合成して、一本のラインで伝送する。送受信側の両方で混合・分離のプロセスが必要となる。接続にはピンケーブルが用いられる。

RGB 信号

赤、緑、青の光の三原色を数値化して、個別にその色情報を伝送する方式で、受信側ではそれを加色混合してさまざまな色を表現する。コンピューター機器間でのカラー画像の授受に広く用いられる。水平・垂直の同期信号も併せて必要となる。

D 端子

最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号を一本の専用ケーブルで接続できる。その性能に応じてD1からD5に分けられ、本機はD4対応である。

DVI 端子

コンピューター機器からのデジタルのRGB信号を差動で伝送する方式で、24ピンの専用端子とケーブルを使用する。

スタンバイ

本体とリモコンからの電源オンの信号を受信する為の回路だけをアクティブにして、その他の主回路はオフの状態にある時(待機状態)のこと。この場合わずかな電力を消費する。

テストパターン

スクリーンに投影する映像の位置やフォーカス等を調整する為に、試験的に投影する内蔵されたパターンである。

アスペクト / ASPECT

基本的には、画像の縦横比をアスペクト比という。本機では、使用するスクリーンの縦横比を設定するスクリーンアスペクトと、入力信号に対して投影する映像の大きさや縦横比を変更する表示アスペクトがある。

天吊金具

本機を天井から吊るす形で設置する場合に使用する別売の専用の吊り金具で、その高さにより、低天井用と高天井用の二種類が用意されている。

インターレース

通常のテレビジョンの走査方式で、一画面を偶数奇数の二つのフィールドに分けて走査し、この二つのフィールドでひとつの画面(フレーム)を構成する。

プログレッシブ

ひとつの画面(フレーム)のすべての走査線を一度に表示するもので、大画面にすると気になるチラツキがなく、緻密で滑らかな映像が得られる。本機での投影は、すべてこのプログレッシブ方式で行なわれる。

台形補正 / Key Stone

本機設置時に、スクリーンに対して投影角度が仰角または俯角を持っていると画面が台形にひずむ。この歪みを電子的に補正するのが台形補正で、本機ではノーマル補正とフル補正の二種類が用意されている。

レターボックス

横長の映画コンテンツを4:3の信号の中に収める時の方法の一つで、画面の上下に黒い帯を入れることにより横長の映像をトリミングなしで見ることができる。但し、垂直の解像度は若干犠牲となる。

スクイーズ

横長の映画フィルムをビデオソフトにする際に、水平方向を4:3のサイズに入れるように圧縮して収録すること。そのままでは縦長の映像となるので、再生に際しては、圧縮をもとに戻す回路を通して見る必要がある。

ビスタサイズ

映画フィルムのサイズのひとつで、アスペクト比は北米で1.85:1で、ヨーロッパでは1.66:1である。

シネマスコープサイズ

70mmのフィルムを用いて撮影された最も横長のサイズで、アスペクト比は2.35:1である。

* DLP™ および DMD™ は米国 TI 社の登録商標です。

投影できる信号について

本機で投影可能な信号の種類・フォーマットを下記に示します。
 これ以外の信号に対しては、正しい投影が出来なくなる場合がありますのでご注意ください。

1. TV フォーマット ① ----- (入力端子 VIDEO, S VIDEO へのコンポジットまたは S ビデオ信号入力)

信号の種類	V active (lines)	f (v) (Hz)	色信号 (MHz)	カラー方式
NTSC	480	59.94	3.5795	NTSC
PAL	576	50.00	4.43	PAL
SECAM	576	50.00	4.406, 4.25	SECAM
PAL60	480	59.94	4.43	PAL
NTSC4.43	480	59.94	4.43	NTSC
PAL-M	480	59.94	3.5756	PAL
PAL-N	576	50.00	3.582	PAL

2. TV フォーマット ② ----- (入力端子 INPUT A, B へのコンポーネント / RGB 信号入力および D4 へのコンポーネント信号入力)

信号の種類	H active (pixels)	V active (lines)	f (H) (kHz)	f (V) (Hz)
480i	720	483	15.734	59.940
576i	720	576	15.625	50.000
480p	720	480	31.469	59.940
720p	1280	720	45.000	59.940
1035i	1920	1035	33.750	60.000
1080i	1920	1080	33.716	59.940

3. PC フォーマット ① ----- (入力端子 INPUT A, B へのアナログ RGB 信号入力)

	信号の種類	H active (pixels)	V active (lines)	f (H) (kHz)	f (V) (Hz)
VESA	VGA@60Hz	640	480	31.469	59.940
	VGA@72Hz	640	480	37.861	72.809
	VGA@75Hz	640	480	37.500	75.000
	VGA@85Hz	640	480	43.269	85.008
	SVGA@56Hz	800	600	35.156	56.250
	SVGA@60Hz	800	600	37.879	60.317
	SVGA@72Hz	800	600	48.077	72.188
	SVGA@75Hz	800	600	46.875	75.000
	SVGA@85Hz	800	600	53.674	85.061
	XGA@60Hz	1024	768	48.363	60.004
	XGA@70Hz	1024	768	56.476	70.069
	XGA@75Hz	1024	768	60.023	75.029
	XGA@85Hz	1024	768	68.677	84.997
	1152x864@75Hz	1152	864	67.500	75.000
	1280x960@60Hz	1280	960	60.000	60.000
Apple	SXGA@60Hz	1280	1024	63.981	60.020
	SXGA@75Hz	1280	1024	79.976	75.025
	Mac13 "	640	480	35.000	66.666
	Mac16 "	832	624	49.725	74.550
	Mac19 "	1024	768	60.241	74.926
	Mac21 "	1152	870	68.681	75.061

4. PC フォーマット ② ----- (入力端子 DVI へのデジタル信号入力)

	信号の種類	H active (pixels)	V active (lines)	f (H) (kHz)	f (V) (Hz)
VESA	VGA@60Hz	640	480	31.469	59.940
	SVGA@60Hz	800	600	37.879	60.316
	XGA@60Hz	1024	768	48.363	60.003
	1280x960@60Hz	1280	960	60.000	60.000
	SXGA@60Hz	1280	1024	63.981	60.019

* VESA は Video Electronics Standards Association の登録商標です。

* Macintosh は Apple Computer 社の登録商標です。

メニュー項目と入力信号との対応

メニューの各項目は、入力信号の種類によって調整・設定ができる項目とできない項目があります。以下に、メニューグループ 画質 と 信号 の各メニューアイテムの入力信号の種類との対応表を示します。これらの設定の大部分は、メモリーとして本機に記憶することができます。下記の備考と P.25 を参照ください。初期 と 設定 については、メニューの各項目毎に行われた設定がそのまま本機に記憶されます。

画質

メニューアイテム	備考	入力信号の種類			
		コンポジット / Sビデオ信号	コンポーネント信号 (480i - 1080i)	RGB TV	RGB PC/DVI
ブラックレベル	M	✓	✓	✓	
コントラスト	M	✓	✓	✓	✓
ブライトネス	M	✓	✓	✓	✓
ガンマ補正	M	✓	✓	✓	✓
シャープネス*	M	✓	✓	✓	✓
色あい**	M	✓			
色の濃さ**	M	✓			
カラーブースト	M		✓		
色温度	M	✓	✓	✓	✓
ホワイトバランス					
コントラスト (R, G, B)	M	✓	✓	✓	✓
ブライトネス (R, G, B)	M	✓	✓	✓	✓
ホワイトブースト	M	✓	✓	✓	✓

* 入力信号の種類 (通常のビデオ信号, HDTV, RGB PC/DVI) に応じて 3 種類をメモリーできます。

** 入力信号が SECAM の場合は “色あい” と “色の濃さ” の調整はできません。

信号

メニューアイテム	備考	入力信号の種類								
		コンポジット / Sビデオ信号			コンポーネント信号				コンピューター信号	
		NTSC	NTSC-S	その他	480i	480p	576i	720p/1080i	RGB	DVI
表示アスペクト	A	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
字幕マスク		✓	✓	✓	✓	✓	✓			
マスク位置		✓	✓	✓	✓	✓	✓			
3次元 Y/C分離	M	✓								
ノイズリダクション	M	✓	✓	✓	✓		✓			
ビデオタイプ	M	✓	✓	✓						
セットアップレベル	M	✓	✓		✓	✓		✓		
ドットフェーズ	S								✓	
水平サイズ	S								✓	
水平シフト	S								✓	
垂直シフト	S								✓	
信号ステータス									✓	✓

備考：M；メモリーが可能な項目で、合計 6 つのパターンが記憶されます。これらはリモコンの MEMORY ボタンを押すことにより、リコールできます。

S；入力された信号の種類により、最新の数パターン分が装置に記憶されます。コンピューター RGB 信号の時に有効です。

A；表示アスペクトについては、スクリーンアスペクトで選ばれた 4：3 あるいは 16：9 に対して、下記の信号の種類別におおの 1 個の表示アスペクトが記憶されます。

スクリーンアスペクト	メニューアイテム	入力信号の種類		
		通常のビデオ信号 (コンポジット, Sビデオ, 480i/480p/576i)	HDTV 信号 (720p/1080i)	コンピューター信号 (RGB/DVI)
4：3	オート	✓		
	ノーマル	✓		
	スクイーズ	✓	✓	✓
	ズーム	✓	✓	✓
	スルー	✓		✓
	スルー-スクイーズ-	✓		
16：9	オート	✓		
	ノーマル	✓		
	スクイーズ	✓	✓	✓
	ズーム	✓		✓
	ズーム-字幕-	✓		✓
	スルー	✓		✓
スルー-スクイーズ-	✓			

メッセージの表示

メッセージ	状況
入力信号がありません。	入力信号がないとき、または検出できないときに、INPUT ボタンで選んだ入力端子名とایشょに表示されます。
INPUT A コンポーネント (例)	INPUT ボタンで選んだ入力端子名が表示されます。信号が入力されると 1 秒後に消えます。
無効な信号です。	PC 系の信号が入力されていますが、受信できません。
検出できません。	ビデオ系の信号が入力されていますが、受信できません。
自動検出しています。	入力されている RGB 信号を検出してその信号に応じた最適な設定をしています。
ステイル	ステイル (静止画) 機能がはたらきました。
ステイルオフ	ステイル (静止画) 機能が解除されました。
メモリー 1 ~ 6	メモリー設定を選ぶとその番号が表示され、1 秒後に消えます。
ESCAPE: 戻る (例)	メニュー操作を促すヘルプメッセージが表示されます。
ランプ交換の推奨時間になりました。新しいランプに交換してください。ESCAPE キーを押すとこの表示は消えます。	ランプの使用時間が 1000 時間を越えると、電源を入れた際にこのメッセージが表示されま す。ESCAPE ボタンを押して表示を消します。
もう一度押すとスタンバイ状態になります。	もう一度押すとスタンバイ状態になってランプが消えます。

メンテナンスについて

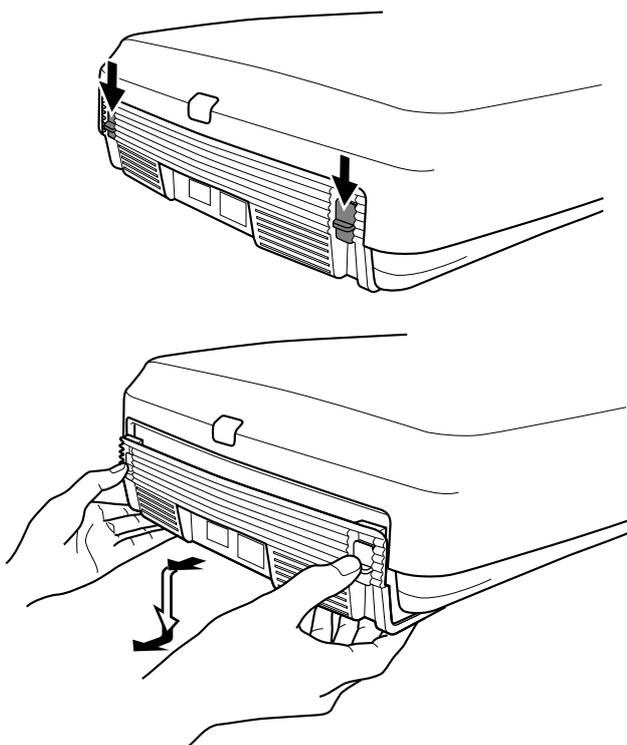
日常のお手入れ

お手入れの前には必ず電源コードを抜いてください。
プロジェクター本体の汚れは、柔らかい布で拭いてください。
汚れのひどい時は、水でうすめた中性洗剤に浸した布を固く絞って拭取り、乾いた布で仕上げてください。
シンナーやベンジンなどの溶剤は、変質や変形することがありますので使わないでください。
レンズに直接手を触れたり、傷をつけたりしないようご注意ください。

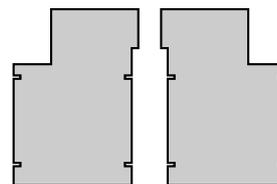
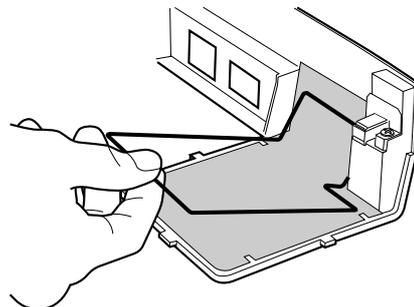
フィルターの清掃

吸気口のフィルターに埃がたまると、空気の流れが悪くなり、内部温度が上昇し、故障の原因となります。
約200時間毎にフィルターのクリーニングをしてください。
フィルターの埃が落ちにくくなった時は、新しいものと交換してください。

1. 電源を切り、電源コードを抜く。
2. 本機背面左右にある、黒色のフィルターレバーを押し下げながら、フィルター枠を手前に引き、下方に下げて取外します。



3. フィルター枠の内側についている針金のフィルター押えを、4箇所突起から外し、薄いスポンジ状のフィルターを取外します。(左右とも)



4. 取外したフィルターは、注意深く清掃・洗浄し、たまった埃を取除いてください。
5. クリーニングの終わったフィルターは、十分に乾燥させた後、元のようにフィルター枠に装着し、本体にきちんと取付けてください。取付けが不完全だと、ランプが点灯しません。

ご注意

- とくに汚れがひどいもの、埃が落ちにくいものは、付属の交換用フィルターと交換してください。
- 交換用フィルターが必要な場合には、ヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問合せください。

メンテナンスについて

ランプの交換

ご注意

- ・ 専用の交換用ランプカートリッジPJL-112を必ずお使いください。それ以外のランプカートリッジは本機にはご使用になれません。

光源に用いられているランプは消耗品であり、使用するにしたがって徐々にその輝度が低下していきます。最良の映像をお楽しみいただくには、使用時間が1000時間になった時を目処にランプの交換を推奨します。

ランプの使用時間は「メニュー」の③初期の項目で知ることができます。また、1000時間を超えるとLAMP/COVERインディケーターが点滅します。(P.14 参照)

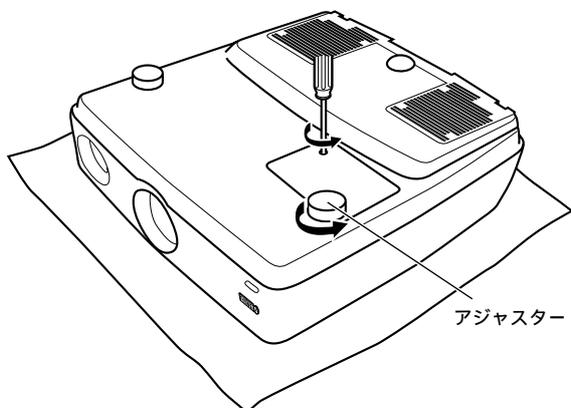
また画面上に交換をうながすメッセージが表示されます。この場合は、以下の手順に従ってランプカートリッジを交換してください。

交換に際しては、専用の交換用ランプカートリッジPJL-112をご使用ください。これ以外のものは使用できません。交換用ランプカートリッジについては、お買上げ店にご相談ください。

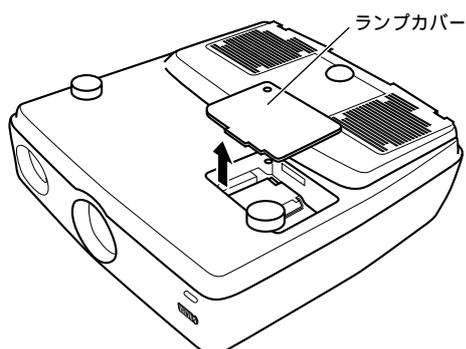
ご注意

- ・ ランプカートリッジの交換は、電源を切り、ファン停止後電源コードを抜き、一時間後ランプが充分冷えてから行なってください。
- ・ 指定のネジ以外は外さないでください。

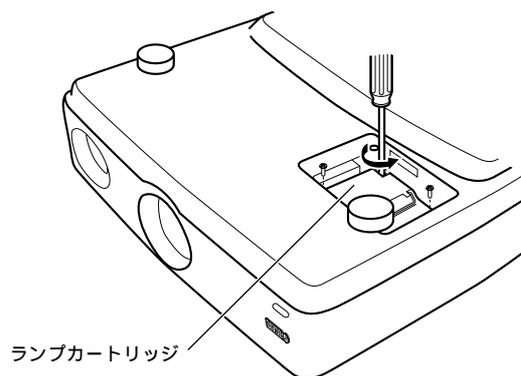
1. 傷がつかないように布などを敷き、その上に本機を注意深く裏返しに置きます。



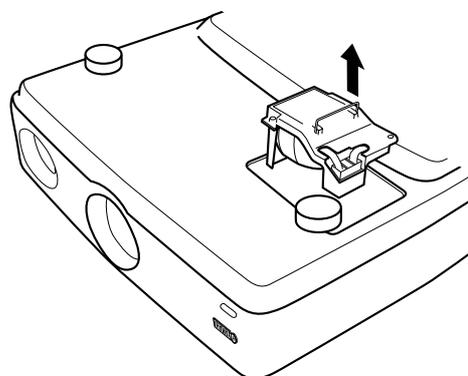
2. アジャスターをゆるめ、ランプカバーを外しやすくする。
3. ランプカバーのネジをゆるめる。
4. ランプカバーを外します。



5. ランプカートリッジの3本のネジを完全にゆるめる。



6. 把手をつかみランプカートリッジを上へ引抜き、取出します。



7. 新しいランプカートリッジを、逆の順序で元のように取付け、ネジを締め、しっかりと固定します。
8. ランプカバーを取付け、ネジを締めます。
カバーの取付けが不完全だと、ランプが点灯しませんので確実に取付けてください。
9. 電源を入れて、投射状態になったら「メニュー」の“ランプ使用時間”をリセットします。(P.22 参照)

故障かなと思ったら

症状	原因	対処方法
電源が入らない	主電源スイッチが切れている	主電源スイッチを入れる
	電源を切った直後に電源をいれようとしている	電源を切った後2分以内はランプの保護のため電源は入りません
	フィルターカバーが外れている	フィルターカバーをしっかりとめる
	ランプカバーが外れている	ランプカバーをしっかりとめる
映像が映らない	レンズキャップがついたままになっている	レンズキャップを外す
	外部機器との接続ケーブルが正しく接続されていない	接続を確認する
	入力信号の切り換えが正しくない	INPUT ボタンで正しく選ぶ
		リモコンの AUTO ボタンを押す
	入力信号の設定が正しくない	信号の設定を「メニュー」により入力信号にあわせて設定する
	映像が消されている	リモコンの HIDE ボタンを押して解除する
コンピューターの外部モニターの設定が正しくない	外部モニターへの出力信号を適切に設定する（コンピューターの取扱説明書も併せて参照ください）	
画面が乱れる	接続ケーブルの接触不良	接続ケーブルを端子にしっかりとめる
映像がぼやける	フォーカスが合っていない	フォーカスリングでピントを調整する
	本機とスクリーンが直角になっていない	直角になるように投影角度・向き・設置する、高さを調整する
リモコンが正しく動作しない	乾電池が消耗している	2本とも新しい乾電池に交換する
	リモコン受光部の設定が正しくない	「メニュー」により正しく設定する
	リモコン受光部の近くに蛍光灯がある	その方向の受光部を設定からはずす
LAMP/COVER インディケータが点灯する	フィルターカバーが閉まっていない	フィルターカバーをしっかりと閉める
	ランプカバーが閉まっていない	ランプカバーをしっかりと閉める
LAMP/COVER インディケータが点滅する	ランプの使用時間が1000時間を超えている	ランプを交換する
	ランプが切れている	ランプを交換する
TEMP/FAN インディケータが点灯する	内部が異常に高温になっている	吸気口・排気口がふさがれていないか確認する
TEMP/FAN インディケータが点滅する	ファンが故障している	お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点に相談ください

仕様

仕様

光学系

投影方式 DLP™方式
1024 x 768 画素、0.9 inch

レンズ f = 35 ~ 42 mm F = 2.7 ~ 3.0
マニュアルズーム (1.2 倍)
マニュアルフォーカス

ランプ 120 W VIP ランプ

画面サイズ 最大 200 inch
投影距離 8.1 m (ワイド時、4 : 3 スクリーン)

明るさ 800 ANSI lm

コントラスト 900 : 1

電気系

カラー方式 NTSC, PAL, SECAM, NTSC^{4.43},
PAL-M, PAL-N, PAL60

走査周波数 H; 15 ~ 80 kHz/V; 50 ~ 85 Hz

入力

VIDEO コンボジット信号
1Vp-p/75 , 同期負極性

S VIDEO S ビデオ信号
Y : 1Vp-p/75 , 同期負極性
C : 0.286 又は 0.3Vp-p/75

D4 VIDEO コンポーネント信号
同期付 Y : 1Vp-p/75 , 同期負極性
(480i, 576i, 480p)
同期付 Y : 1Vp-p/75 , 3 値同期
(1035i, 1080i, 720p)
PB, PR : 0.7Vp-p/75

INPUT A/INPUT B

コンポーネント信号
同期付 Y : 1Vp-p/75 , 同期負極性
(480i, 576i, 480p)
同期付 Y : 1Vp-p/75 , 3 値同期
(1035i, 1080i, 720p)
PB, PR : 0.7Vp-p/75

RGB 信号

同期付 G : 1Vp-p/75 , 同期負極性
(480i, 576i, 480p)
同期付 G : 1Vp-p/75 , 3 値同期
(1035i, 1080i, 720p)
G : 0.7Vp-p/75
(HD/VD 又は SYNC 使用時)
B, R : 0.7Vp-p/75
HD, VD : TTL レベル (正負極性) / 2.2k
SYNC : 2Vp-p/2.2k , 同期負極性
(480i, 576i)

DVI デジタル RGB 信号

制御系

リモート RS-232C (D-sub 9 ピン)

トリガー パワーオン時 + 12 V,
オフ時 0V (ミニジャック)

リモコン受光部

..... 前後 2 箇所

一般

動作温度範囲 5 ~ 35

動作湿度範囲 30% ~ 85% (結露しないこと)

電源 AC100 ~ 120 V/220 ~ 240 V, 50/60 Hz

消費電力 185 W

スタンバイ時消費電力 10 W

外形寸法 415(W) x 129(H) x 422(D) mm

重量 7.8 kg

付属品

- 電源コード 1
- プラグ変換アダプター 1
- ワイアレスリモコン 1
- 単三乾電池 2
- ピン/BNC 変換アダプター 3
- レンズキャップ 1
- 交換用フィルター 2
- 取扱説明書 1

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

- 本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

- 本機は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本機は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本機がラジオやテレビジョン受信機に接近して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- 技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00, 13:00~18:00
(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-1-6
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

電源コード・プラグが異常に熱い。
コゲくさい臭いがする。
電源コードに深いキズか変形がある。
製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
電源を入れても正常に作動しない。
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>